

2024 年度（令和 6 年度）

学生生活実態調査等 報告書

学生サポート委員会

2025 年 3 月 26 日

目 次

はじめに	．．．．． 2
1) 学生生活実態調査	
I．住まい及び経済状況について	．．．．． 5
II．生活の状況について	．．．．． 11
III．履修・学修について	．．．．． 14
IV．進路（キャリア形成）について	．．．．． 21
V．施設・大学生活について	．．．．． 24
2) ハラスメント・犯罪・薬物被害等に関する調査	
I．ハラスメントについて	．．．．． 31
II．犯罪・薬物被害について	．．．．． 35
総 括	．．．．． 40

はじめに

本学では、調査結果を基に学生の課題を把握し、サポートにつなげることや大学運営に反映させる目的で、「学生生活実態調査」を実施している。

実施方法においては、学生の記入ミスなどを防ぎ、情報を正確に取得するために、匿名性を廃止し（学生のメールアドレスを自動取得）、Google フォームで回答を集約する形式を採用している。なお、「ハラスメント、犯罪・薬物被害に関する調査」に関しては、匿名で実施している。調査項目の結果は、2022 年および 2023 年の結果と比較した内容を記載しているので、参考にしていきたい。

1. 調査の趣旨等

調査を通し、学生支援や学修支援の取り組みの効果を確認し、より快適な学生生活に必要な制度や環境を整備する。また、安心・安全な学修環境の実現に必要な制度等を整備する。

2. 対象

表 1 2024 年 9 月 1 日現在、名桜大学に所属する学群・学部の学生（全学生） 2,256 人

	国際学類	国際文化 学科	国際観光 産業学科	スポーツ 健康学科	看護学科	健康情報 学科	合計
1 年次	1	210	169	100	87	81	648
2 年次	17	171	164	103	86	44	585
3 年次	293			108	93		494
4 年次	331			111	87		529
合計	642	381	333	422	353	125	2,256

3. 実施期間及び調査方法

期間：2024 年 9 月 24 日（火）～10 月 14 日（月）

調査方法：Google form を活用したウェブ調査

4. 回答状況

表 2 回答状況 人（％）

	国際学類	国際文化 学科	国際観光 産業学科	スポーツ 健康学科	看護学科	健康情報 学科	合計
1 年次	0 (0.0)	154 (73.3)	128 (75.7)	85 (85.0)	83 (95.4)	69 (85.2)	519 (80.1)
2 年次	1 (5.9)	126 (73.7)	138 (84.1)	81 (78.6)	80 (93.0)	36 (81.8)	462 (79.0)
3 年次	114 (38.9)			31 (28.7)	84 (90.3)		229 (46.4)
4 年次	110 (33.2)			21 (18.9)	64 (73.6)		195 (36.9)
合計	225 (35.0)	280 (73.5)	266 (79.9)	218 (51.7)	311 (88.1)	105 (84.0)	1,405 (62.3)

5. 調査別回答数

- 1) 学生生活実態調査 ……1,405 件の回答 (62.3%)
- 2) ハラスメント・犯罪・薬物被害等に関する調査 ……1,343 件の回答 (59.5%)

6. 調査項目

- 1) 学生生活実態調査
 - I 住まい及び経済状況について (10 項目)
 - II 生活の状況について (3 項目)
 - III 履修・学修について (14 項目)
 - IV 進路 (キャリア形成) について (3 項目)
 - V 施設・大学生活について (3 項目)
- 2) ハラスメント・犯罪・薬物被害等に関する調査
 - I ハラスメントについて (6 項目)
 - II 犯罪・薬物被害について (8 項目)

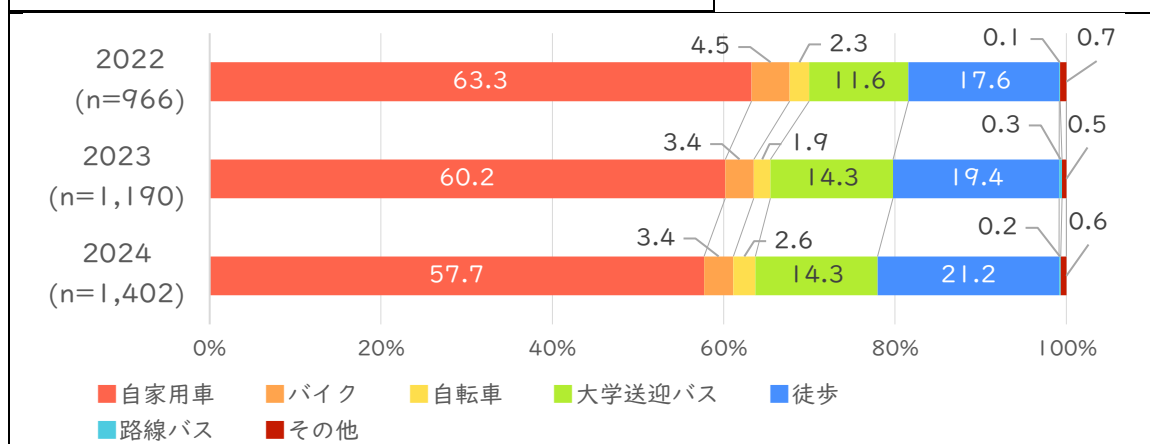
7. 結果・分析・課題・改善

各調査項目参照

I 学生生活実態調査

I. 住まい及び経済状況について

問Ⅰ 最も頻繁に利用する通学手段はどれですか。

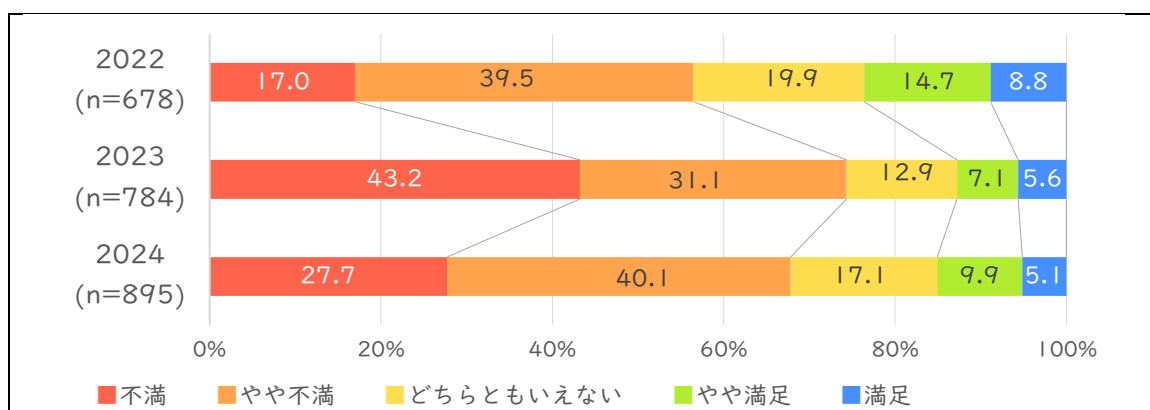


図Ⅰ 通学手段 (%)

6割近い学生が自家用車で通学している

通学手段に関する調査では、「自家用車」と回答した学生の割合は57.7%となり、過去2年間の調査結果と比較すると減少傾向にある。一方、「徒歩」と回答した学生は21.2%となっており、こちらは増加傾向にある。また、「大学送迎バス」と回答した学生は14.3%と前回の調査結果（2023年度）と変化はない。

問Ⅰ-Ⅰ 駐車場・駐輪場に対する満足度を教えてください。



図Ⅱ 駐車場・駐輪場に対する満足度 (%)

駐車場・駐輪場の満足度は前年度との比較で改善傾向にある

駐車場・駐輪場に対する満足度調査では、「満足」または「やや満足」と回答した学生は15.0%となっており、前回調査（2023年度）と比較すると2.3ポイント増加した。一方、「不満」と回答した学生は27.7%で、前回調査（2023年度）と比較すると15.5ポイント減少し大幅に減少した。

問 1-1 大学送迎バスに対する満足度を教えてください。

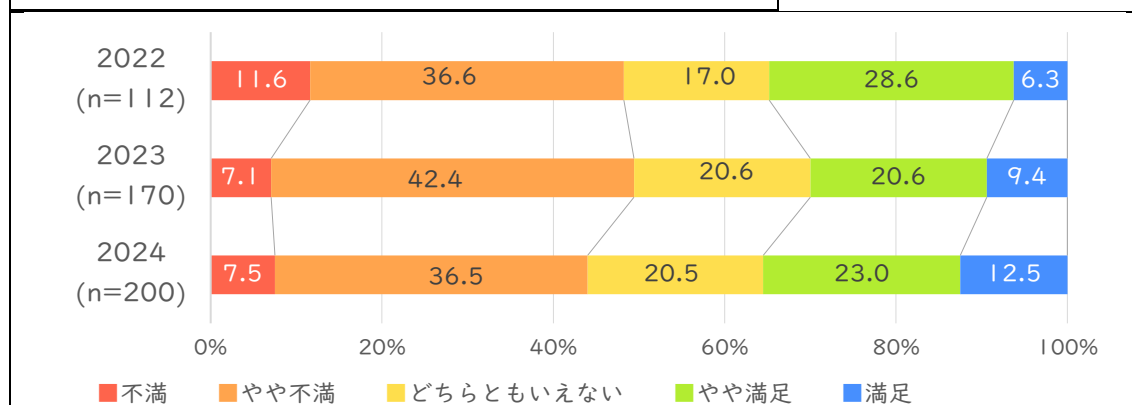


図 3 大学送迎バスに対する満足度 (%)

大学送迎バスに対する満足度は改善傾向にある

大学送迎バスに関する満足度調査では、「満足」または「やや満足」と回答した学生は 35.5%となっており、前回調査（2023 年度）と比較すると 5.5 ポイント増加した。一方、「不満」あるいは「やや不満」と回答した学生は 44.0%で、前回調査（2023 年度）と比較すると 5.5 ポイント減少したものの、以前高い割合である。

問 2 現在の居住形態を教えてください。

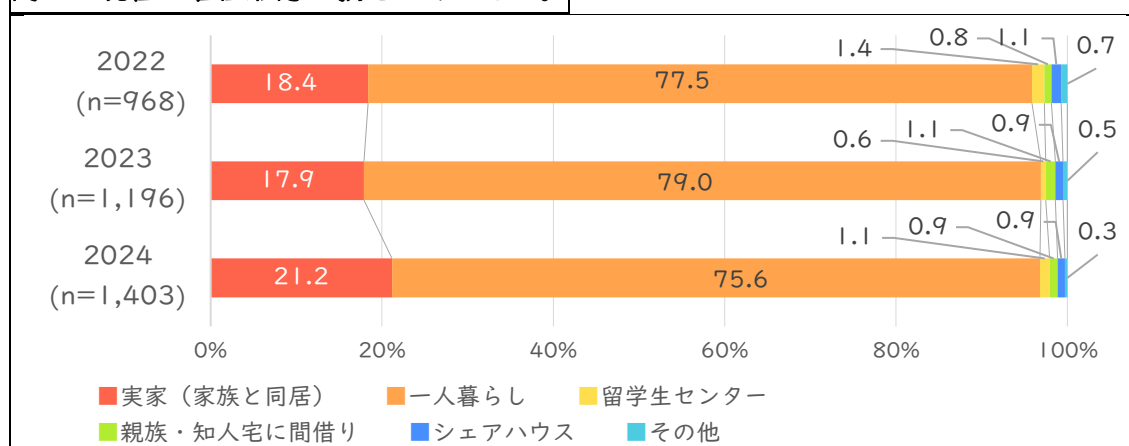


図 4 居住形態 (%)

7 割以上の学生が一人暮らしをしている

居住形態に関する調査では、「一人暮らし」と回答した学生は 75.6%と最も高く、次に「実家（家族と同居）」が 21.2%となっており、前回調査（2023 年度）と比較すると 3.3 ポイント増加している。過去 2 年間の調査結果から大きな変化は見られない。

問3 家族からの仕送り（小遣い）は平均月額どのくらいですか。

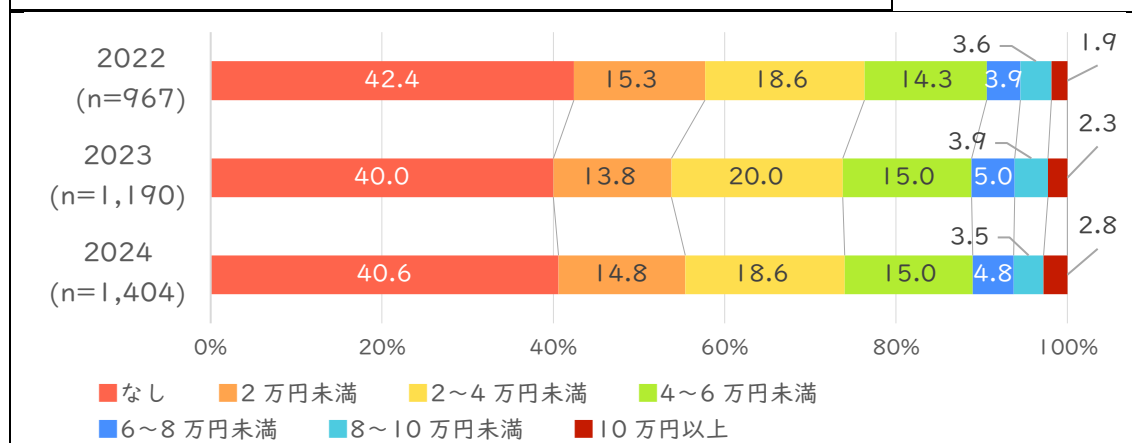


図5 家族からの仕送り（小遣い）の平均月額（学納金は除く）（%）

約4割の学生は家族からの仕送りがない

家族からの仕送り（小遣い）の平均月額に関する調査は、「なし」と回答した学生は40.6%と最も多く、次に「2~4万円未満」が18.6%、「2万円未満」が14.8%となっている。全体的に見ると、前回調査（2023年度）と同様、約7割の学生が家庭からの仕送り（小遣い）が4万円未満である。

問4 アルバイトをしていますか。

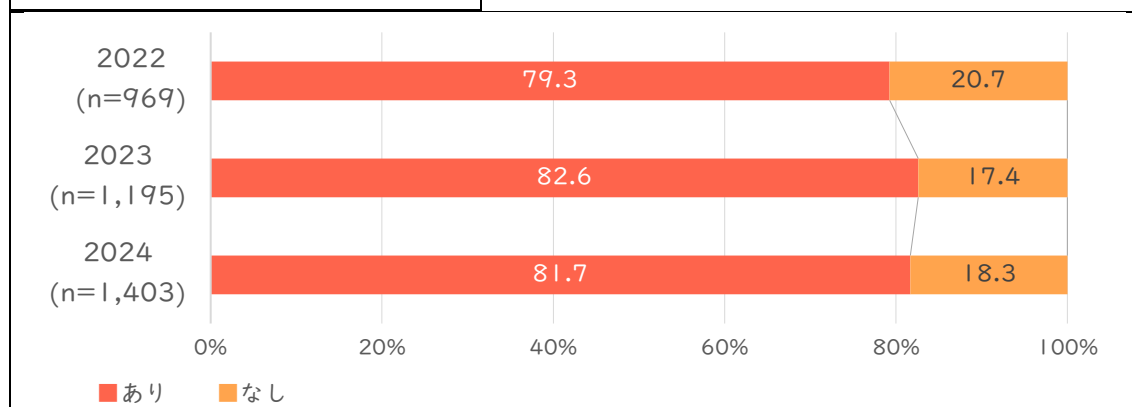


図6 アルバイトの有無（%）

8割以上の学生がアルバイトに従事している

アルバイトの有無に関する調査では、「あり」と回答した学生は81.7%となっており、前回調査（2023年度）と比較すると0.9ポイント減少した。過去2年間の調査結果から、約8割の学生が何らかのアルバイトに従事している。

問5 アルバイトの目的は何ですか（複数回答可）。

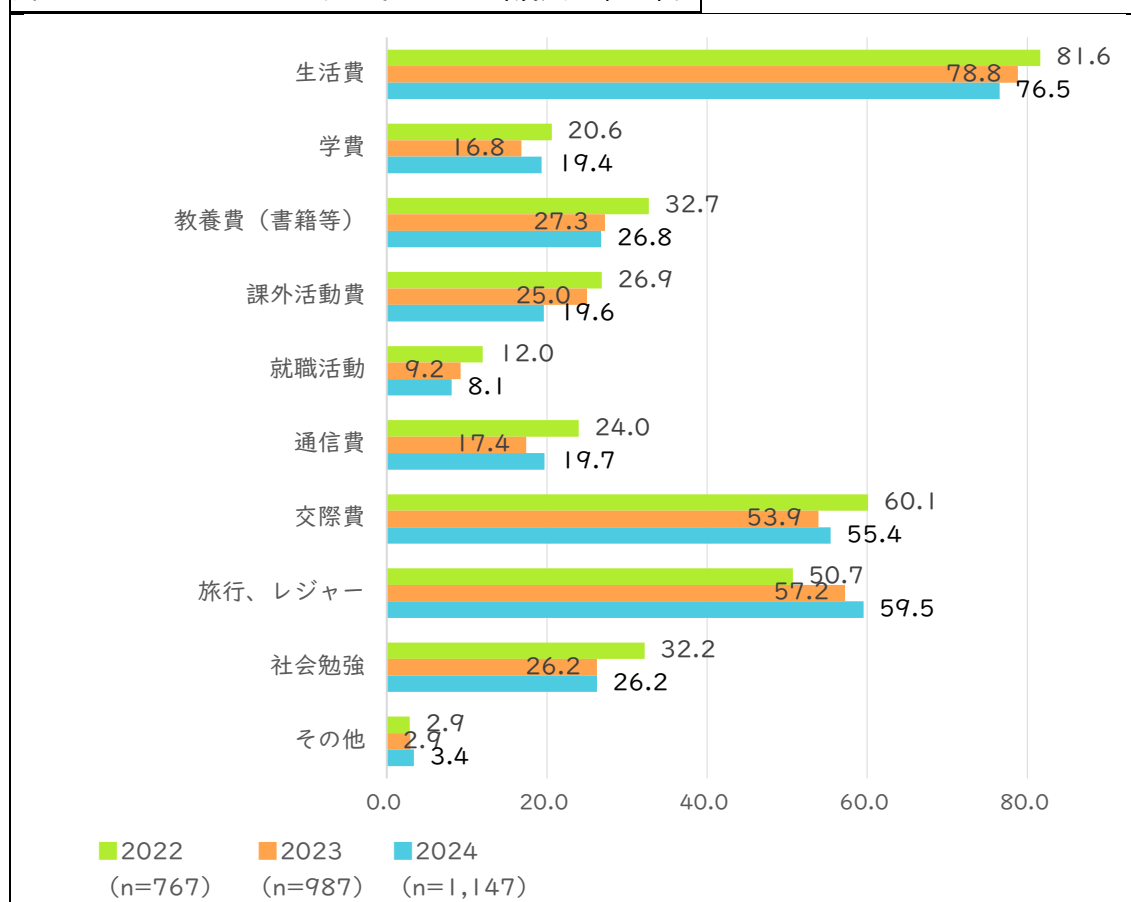


図7 アルバイトの目的（複数回答可）（％）

約8割の学生は生活費を目的にアルバイトに従事

アルバイトの目的に関する調査では、「生活費」と回答した学生が76.5%と最も多く、次に「旅行、レジャー」が59.5%、「交際費」が55.4%と続いている。過去2年間の調査結果から、「生活費」の回答については前々回調査（2022年度）から5.1ポイント減少している。一方、「旅行、レジャー」は同様比8.8ポイントと増加傾向にある。

問6 週に平均何日アルバイトしていますか。

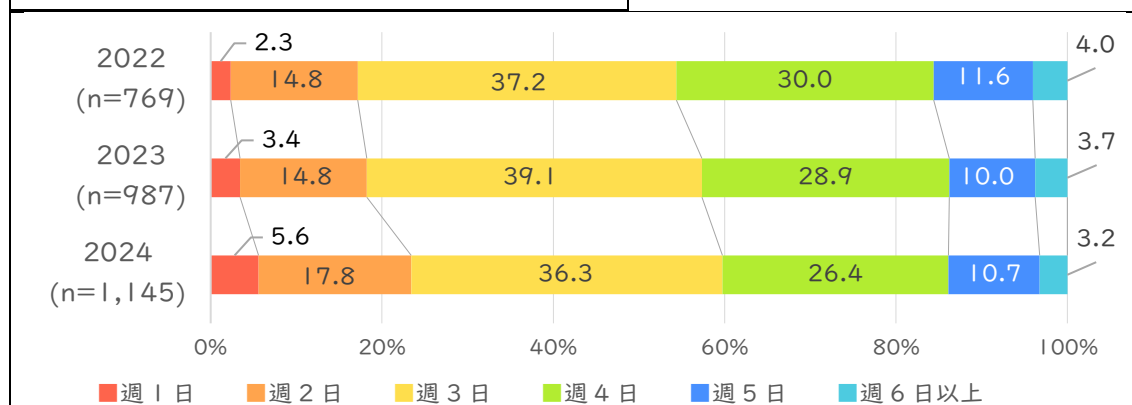


図8 アルバイトの頻度 (%)

アルバイト頻度は週3日が最も多い

アルバイトの頻度に関する調査では、「週3日」と回答した学生が36.3%と最も多く、次に「週4日」が26.4%となっている。過去2年間の調査結果から、大きな変化は見られないが、「週2日」以下の学生の割合は前々回調査（2022年度）から今回調査で6.3ポイント増加している。

問7 1日当たり何時間アルバイトをしていますか。

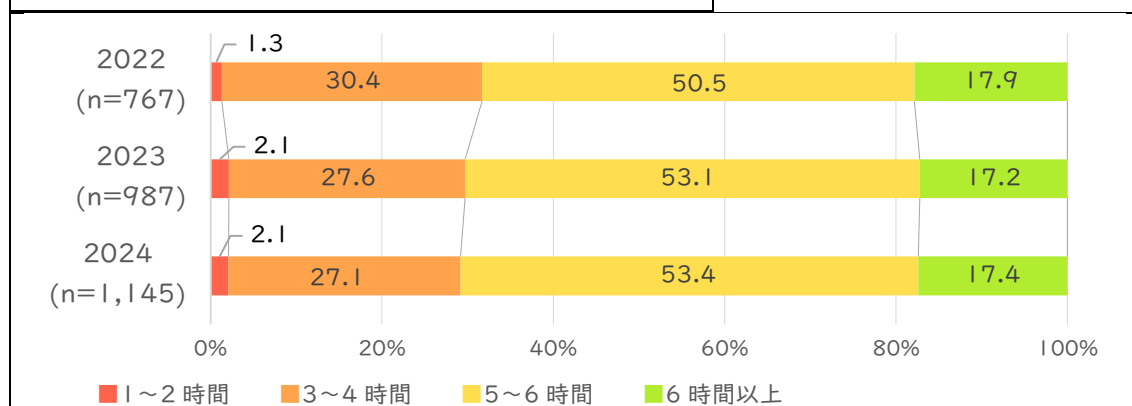


図9 一日あたりのアルバイト時間数 (%)

1日当たりのアルバイト時間数は5~6時間が最も多い

一日当たりのアルバイト時間数に関する調査では、「5~6時間」と回答した学生は53.4%と最も多く、次に「3~4時間」が27.1%、「6時間以上」が17.4%となっている。過去2年間の調査結果から、大きな変化は見られない。

問8 アルバイトの時間帯はいつですか。

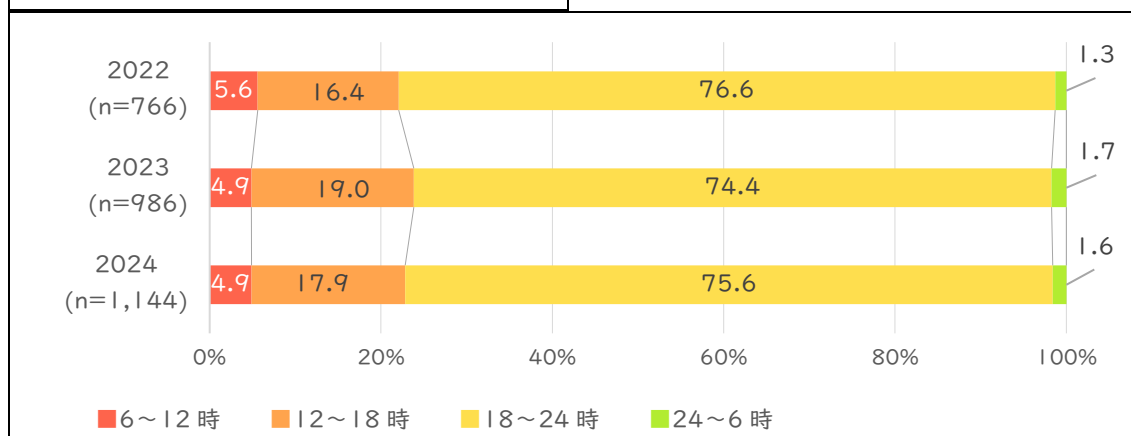


図10 主なアルバイトの時間帯 (%)

授業終了後の夕方以降にアルバイトに従事する学生が多い

主なアルバイトの時間帯に関する調査では、「18～24時」と回答した学生は75.6%と最も多く、次に「12～18時」が17.9%となっている。過去2か年の調査結果から、大きな変化は見られないが、75%前後の学生が、夕方から深夜にかけアルバイトを行っている。一方、「24～6時」と回答した学生の割合が一定数おり、深夜から明け方にかけてバイトに従事している学生がいる。

問9 アルバイトの平均収入はいくらですか。

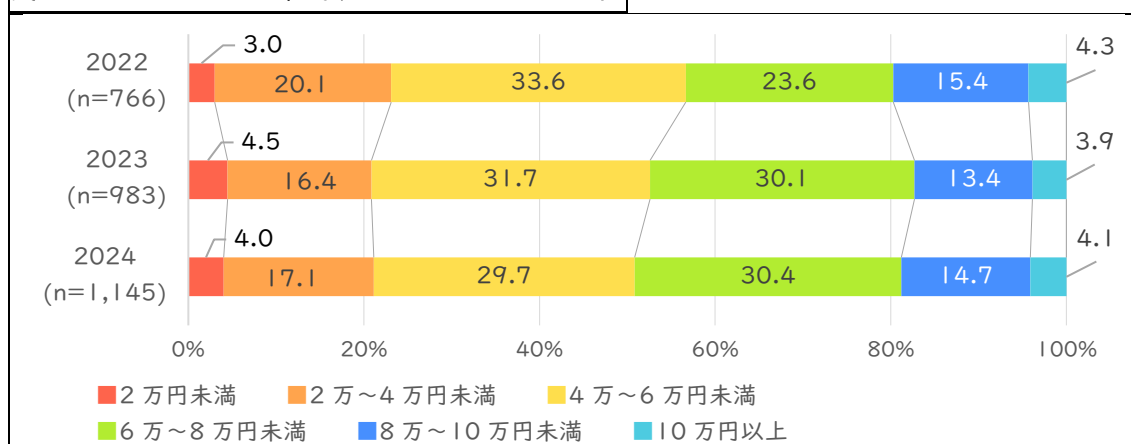


図11 アルバイトの平均収入（夏休みなどの長期休暇期間を除く） (%)

アルバイトをする約6割の学生が月平均4～8万円の収入を得ている

アルバイト平均収入に関する調査では、「6万～8万円未満」或いは「4万～6万円」と回答した学生は60.1%となっている。また、8万円以上の平均収入がある学生は18.8%となっているのに対し、一方、4万円未満の学生は21.1%である。過去2年間の調査結果から、大きな変化は見られない。

Ⅱ．学生生活について

問 11 クラブ・サークル活動へ週に何日くらい参加しますか。

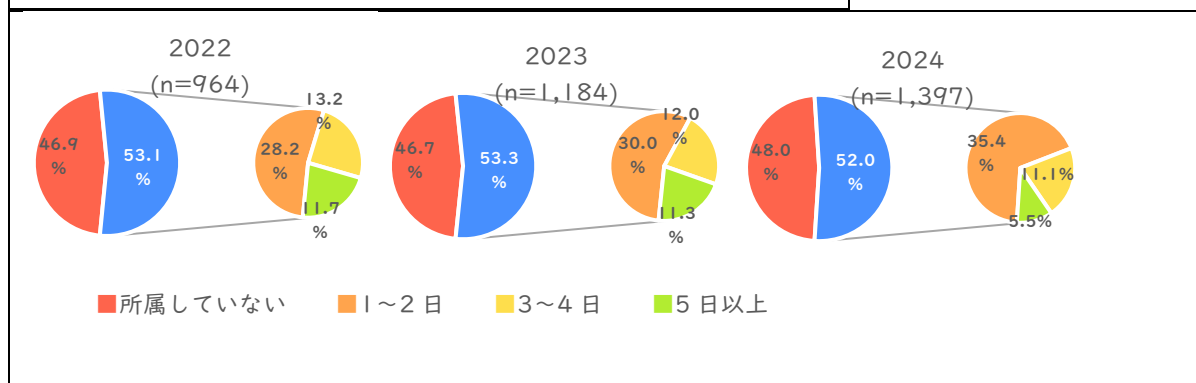


図 12 クラブ・サークル活動への参加頻度 (%)

クラブ・サークル活動への参加状況は減少傾向にある

クラブ・サークル活動への参加頻度に関する調査では、「所属していない」を回答した学生は 48.0%となっており、前々回調査（2022 年度）と比較すると 1.1 ポイント増加している。一方、参加している学生の活動状況については、「週に 1～2 日」が 35.4%と最も多く、前々回調査（2022 年度）と比較すると 7.2 ポイント増加している。

問12 授業のない日や休日はどのように過ごしますか（複数回答可）。

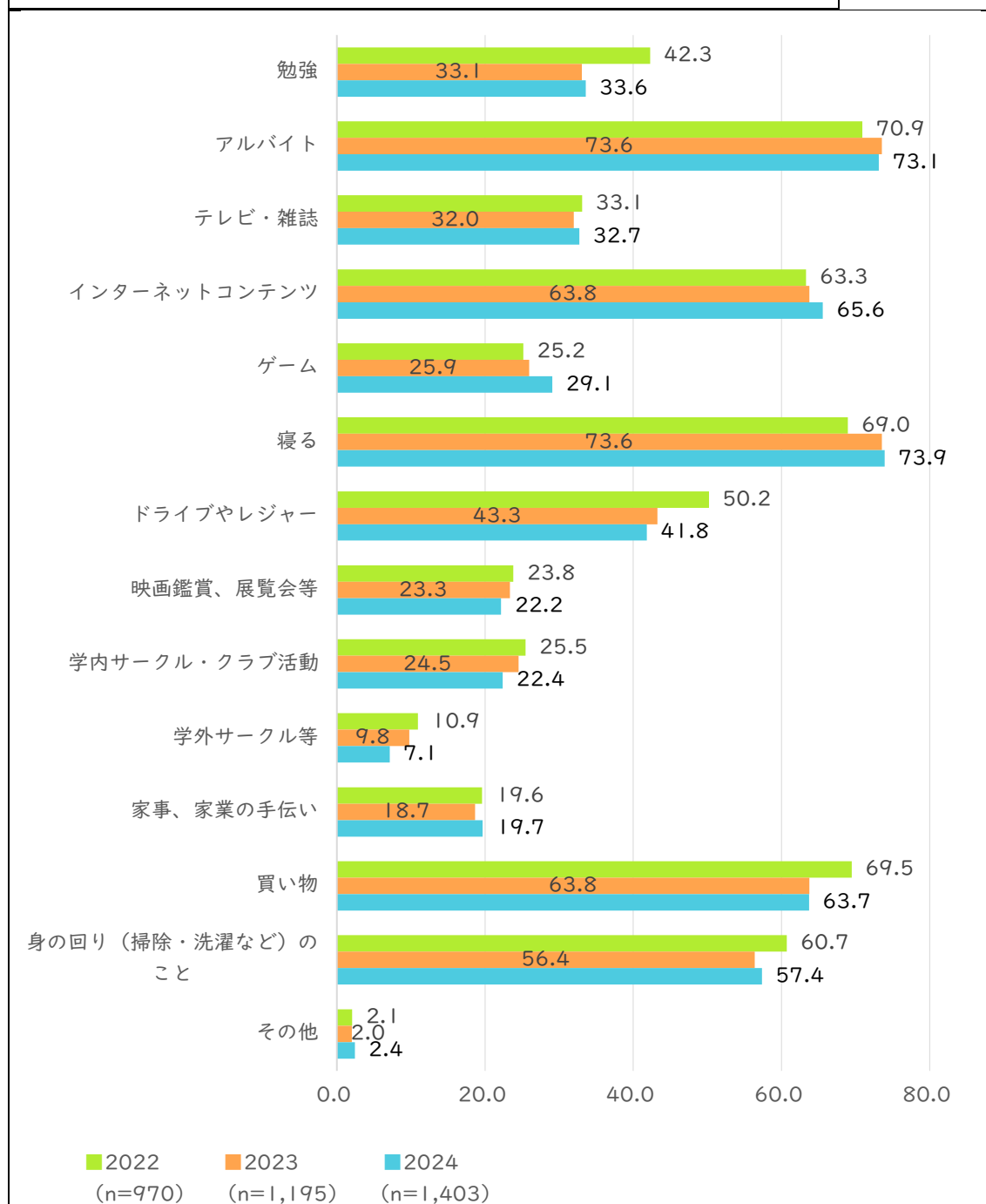


図13 授業のない日や休日の過ごし方（複数回答可）（%）

休日には「寝る」または「アルバイト」をして過ごす学生が多い

授業のない日や休日の過ごし方に関する調査では、「寝る」と回答した学生は73.9%と最も多く、次に「アルバイト」が73.1%、「インターネットコンテンツ」が65.6%と続いている。

問13 現在の悩み事は何ですか（複数回答可）。

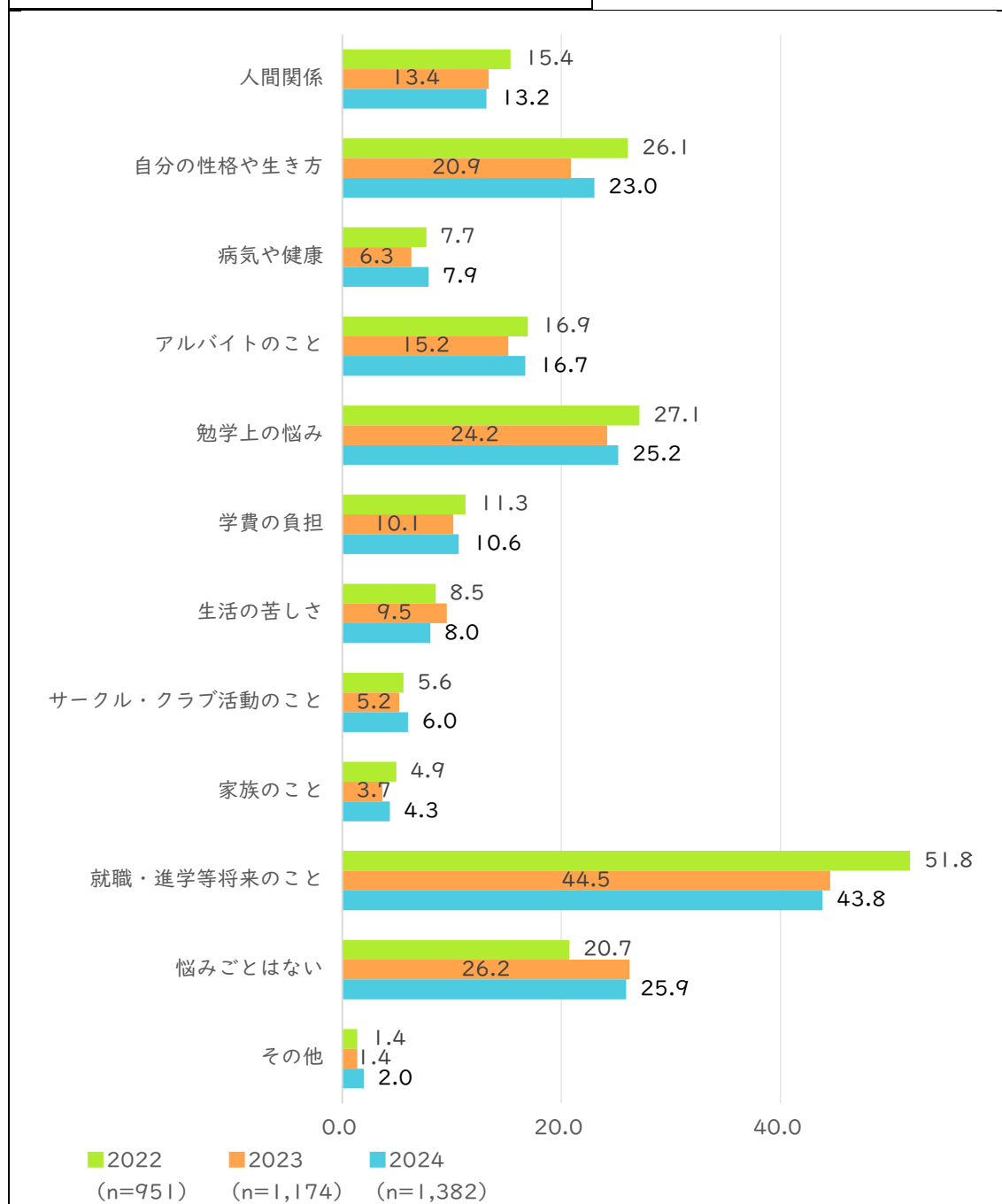


図14 現在の悩み事（複数回答可）（％）

就職・進学等将来の悩み事が最も多いが減少傾向にある

現在の悩みに関する調査では、「就職・進学等将来のこと」と回答した学生は、43.8%と最も多く、次に「悩みごとはない」が25.9%、「勉学上の悩み」が25.2%、「自分の性格や生き方」が23.0%と続いている。過去2年間の調査結果から大きく変化した悩み事は「就職・進学等将来のこと」で、前々回調査(2022年度)と比較すると8.0ポイント減少している。

Ⅲ. 履修・学修について

問 14 指導教員から履修指導を受ける機会がありましたか。

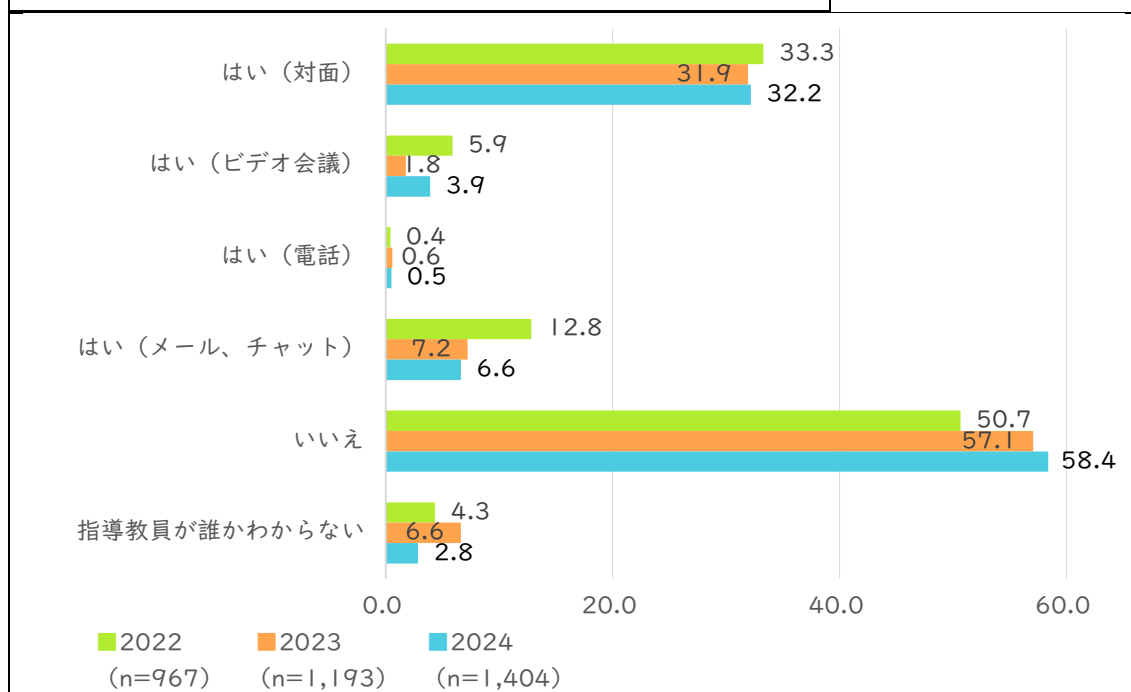


図 15 今年度、指導教員から履修指導を受ける機会の有無（複数回答可） (%)

指導教員から履修指導を受けていない学生が増加傾向にある

指導教員から履修指導を受ける機会の有無に関する調査では、「いいえ」と回答した学生が 58.4%と最も多く、過去 2 年間の調査結果から増加傾向にある。次に「はい（対面）」で 32.2%となっている。また、「指導教員が誰かわからない」では前回調査（2023 年度）から 3.8 ポイント減少し今回調査では 2.8%となった。

問 15 履修支援に満足していますか。

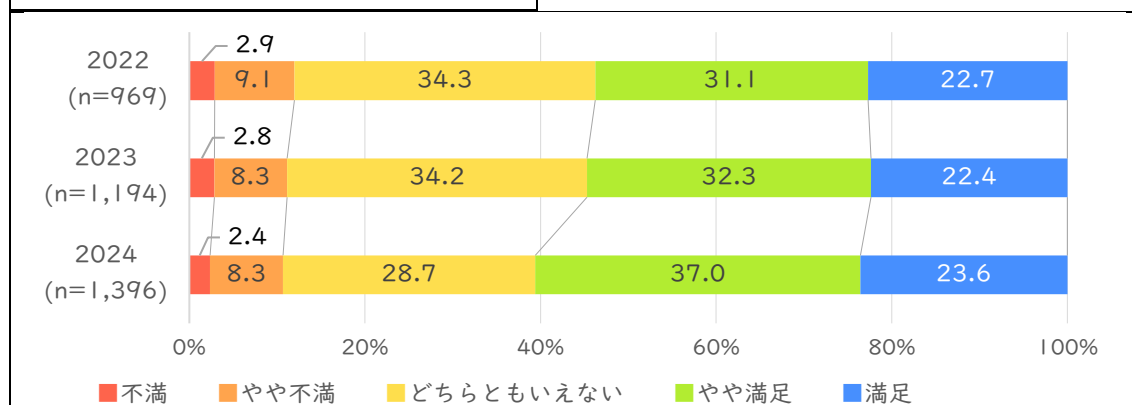


図 16 現在の履修支援の仕組みの満足度 (%)

約 6 割の学生は履修支援に肯定的な意見を持っている

履修支援の仕組み満足度に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生は 60.6% となっており、前回調査（2023 年度）と比較すると 5.9 ポイント増加している。一方、「不満」或いは「やや不満」と回答した学生の割合は、前回調査（2023 年度）とほぼ同様の水準となった。

問 17 授業以外の自己学習の時間はどのくらいですか。

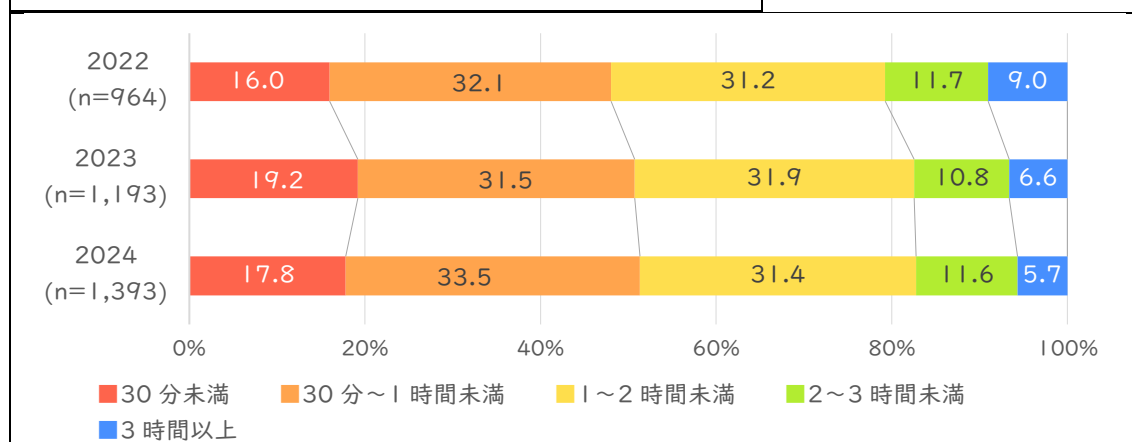


図 17 授業時間以外の自己学習の時間（1 日平均） (%)

約 8 割の学生は自己学習時間が 2 時間未満である

授業時間以外の自己学習の時間に関する調査では、「3 時間以上」と回答した学生は、前々回調査（2022 年度）から 3.3 ポイント減少し 5.7% となり減少傾向にある。割合として最も高いのは「30 分～1 時間未満」で 33.5% となっており、次に「1～2 時間未満」で 31.4% と、前回調査（2023 年度）とほぼ同様の水準となった。

問 18 学科やウェルナビ等先輩学生から履修等の指導を受ける機会がありましたか。

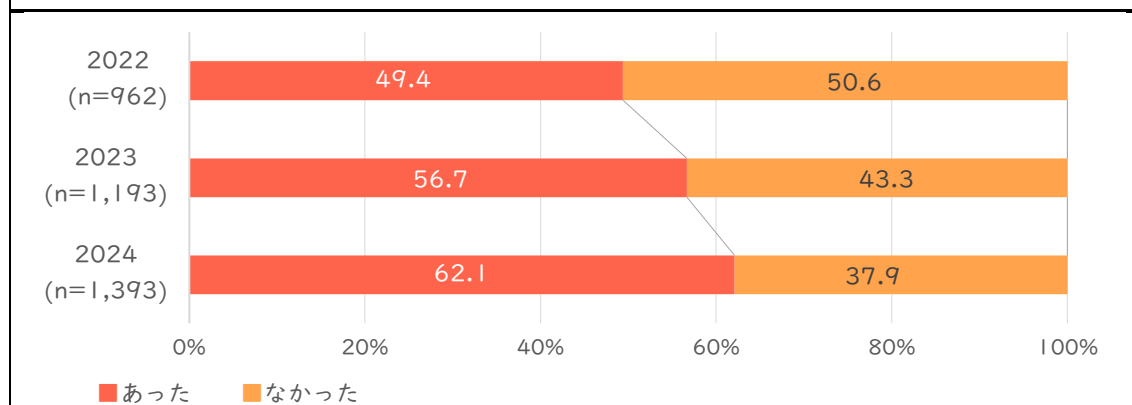


図 18 学科やウェルナビ等の先輩学生から履修や学修の支援を受ける機会の有無 (%)

ウェルナビ等先輩学生からの履修等指導を受ける機会は増加している

学科やウェルナビ等の先輩学生から履修や学修の支援を受ける機会の有無に関する調査では「なかった」と回答した学生が 37.9%、一方、「あった」は 62.1%となり、過去 2 年間の調査結果から増加傾向にあり、先輩学生から学修の支援を受ける機会が増加していることが分かる。

問 18-1 先輩学生からの履修・学修支援の満足度を教えてください。

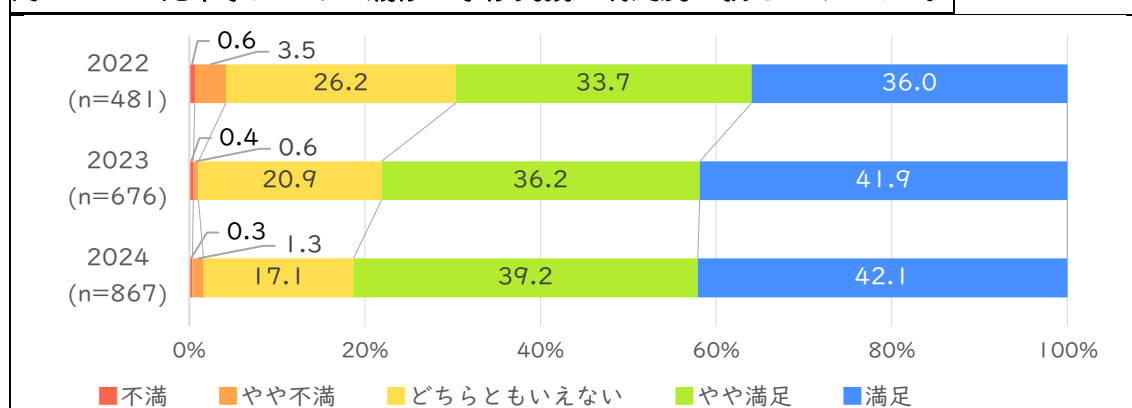


図 19 先輩学生からの履修や学修の支援に対する満足度 (%)

約 8 割の学生が先輩学生による履修・学修支援に肯定的な意見を持っている

先輩学生からの履修や学修の支援に対する満足度に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生は 81.3%と高い割合であり、また、過去 2 年間の調査結果から増加傾向にある。

問 19 言語学習センターの利用機会はありましたか。

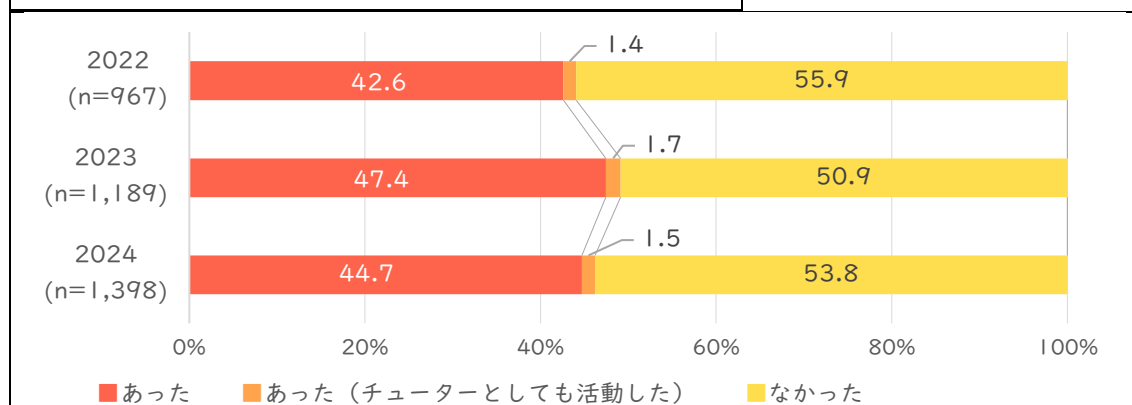


図 20 言語学習センターを利用する機会の有無 (%)

過半数の学生が言語学習センターを利用していない

言語学習センターを利用する機会の有無に関する調査では、「なかった」と回答した学生の割合が 53.8%と前回調査（2023 年度）と比較すると 2.9 ポイント増加した。

問 19-1 言語学習センター利用者の満足度を教えてください。

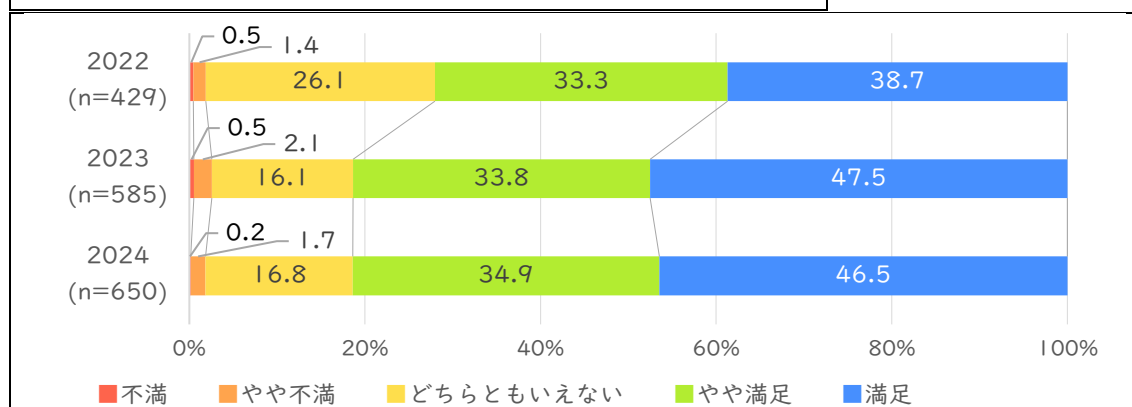


図 21 言語学習センターに対する満足度 (%)

言語学習センター利用者の約 8 割の学生は利用に際し肯定的な回答である

語学習センターに対する満足度に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 81.4%と、前回調査（2023 年度）とほぼ同様の水準で高い割合となった。

問 20 数理学習センターの利用機会有りましたか。

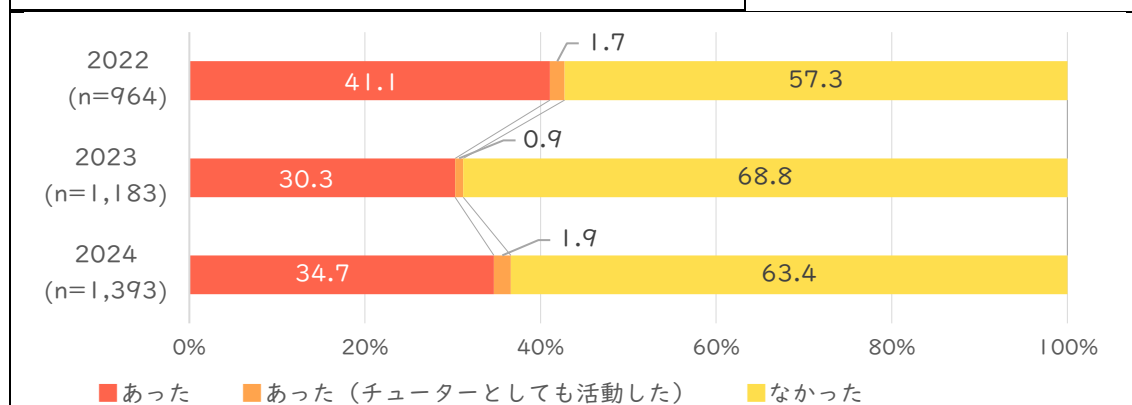


図 22 数理学習センターを利用する機会有無 (%)

約 6 割の学生が数理学習センターを利用していない

数理学習センターを利用する機会有無に関する調査では、「なかった」と回答した学生の割合は 63.4%と前回調査（2023 年度）から 5.4 ポイント減少し 63.4%となった。

問 20-1 数理学習センター利用者の満足度を教えてください。

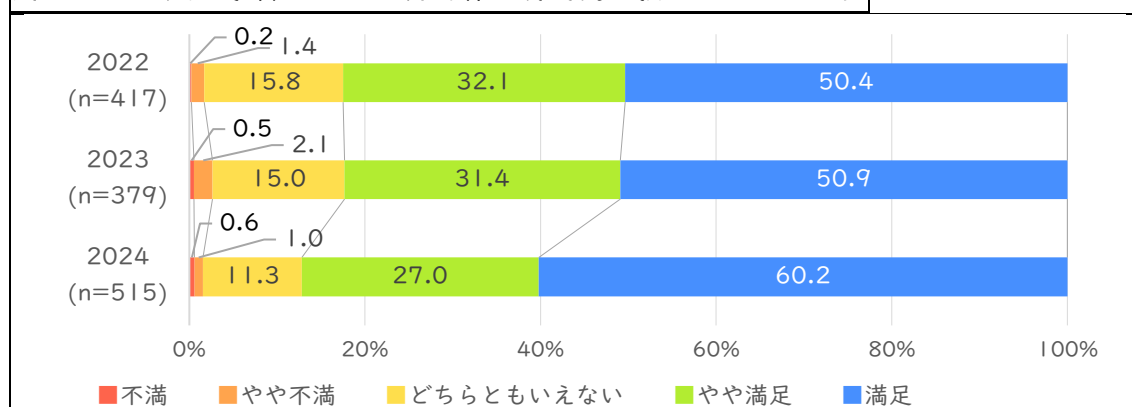


図 23 数理学習センターに対する満足度 (%)

数理学習センター利用者の 9 割近くの学生は利用に際し肯定的な回答である

語学習センターに対する満足度に関する調査では、「満足」と回答した学生の割合が 60.2%と最も高い割合で、前回調査（2023 年度）と比較すると 9.3 ポイントと大幅に増加した。一方、「不満」或いは「やや不満」と回答した学生の割合は 1.6%と前回調査（2023 年度）と比較すると 1.0 ポイント減少した。

問 21 ライティングセンターの利用機会はありましたか。

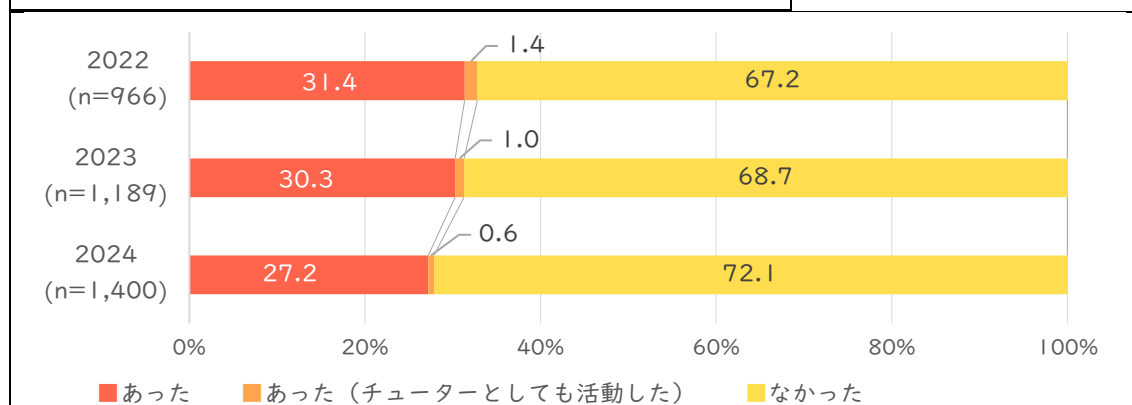


図 24 ライティングセンターを利用する機会の有無 (%)

学生の約7割がライティングセンターを利用していない

ライティングセンターを利用する機会の有無に関する調査では、「なかった」と回答した学生の割合は72.1%と最も高く、過去2年間の調査結果から増加傾向にある。

問 21-1 ライティングセンター利用者の満足度を教えてください。

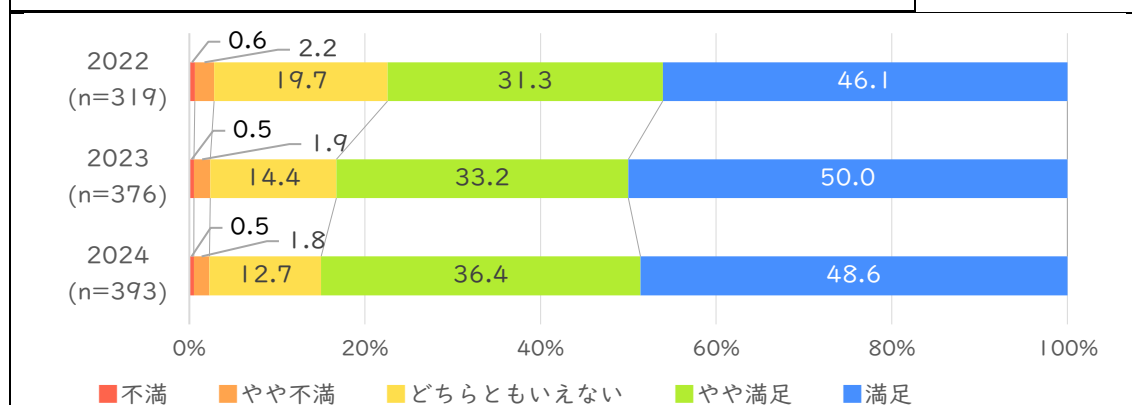


図 25 ライティングセンターに対する満足度 (%)

ライティングセンター利用者8割超の学生は利用に際し肯定的な回答である

ライティングセンターに対する満足度に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は85.0%と高い割合となった。

問 23 卒業までに身につけたい外国語力はどのレベルですか。

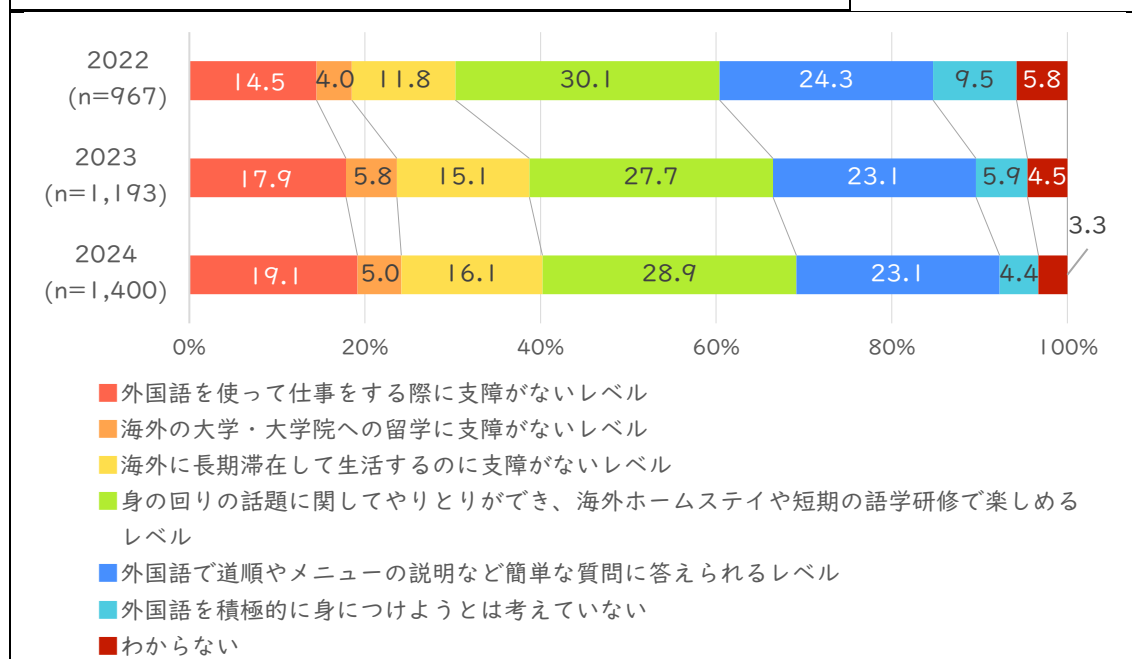


図 26 卒業までに身につけたい外国語力 (%)

学生の約 2 割が外国語を使い仕事ができるレベルを身につけたいとしている

卒業までに身につけたい外国語力に関する調査では、「身の回りの話題に関してやりとりができ、海外ホームステイや短期の語学研修で楽しめるレベル」と回答した学生の割合は 28.9%と最も高く、次に「外国語で道順やメニューの説明など簡単な質問に答えられるレベル」が 23.1%となった。また、「外国語を使って仕事をする際に支障がないレベル」と回答した学生の割合は 19.1%と、過去 2 年間の調査結果から増加傾向にある。

Ⅳ. 進路（キャリア形成）について

問 24 就職・進学等の進路についての相談相手を教えてください（複数回答可）。

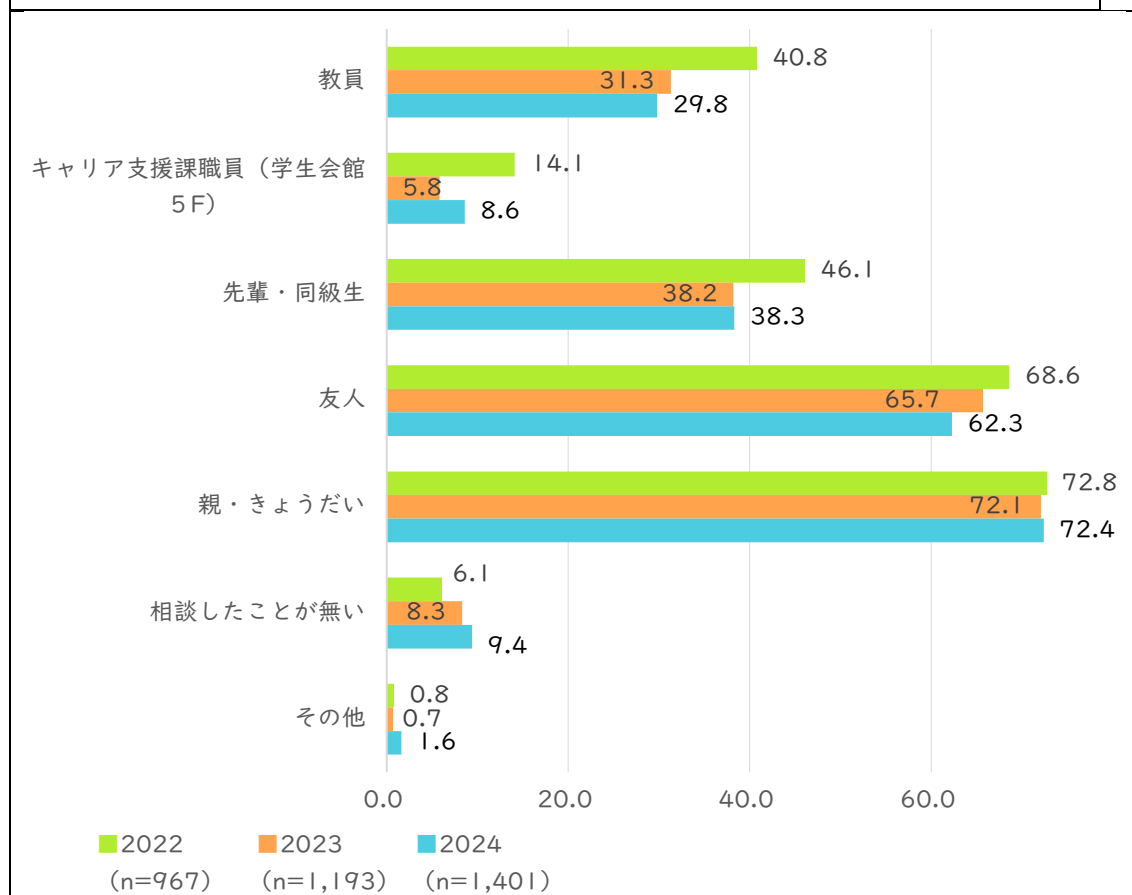


図 27 就職・進学等の進路についての相談相手（複数回答可） (%)

自身の進路についての相談相手は「親・きょうだい」が最も多い

就職・進学等の進路についての相談相手に関する調査では、「親・きょうだい」と回答した学生が72.4%と最も高く、過去2年間の調査結果から、ほとんど変化ない。次に「友人」が62.3%と多いが、前回調査（2023年度）と比較すると3.4ポイント減少し、過去2年間の調査結果からも減少傾向にある。また、「教員」は29.8%となっており同じく減少傾向にある。一方、「キャリア支援課職員」は8.6%と前回調査（2023年度）と比較すると2.8ポイント増加した。

問 25 卒業後の進路について当てはまるものはどれですか（複数回答可）。

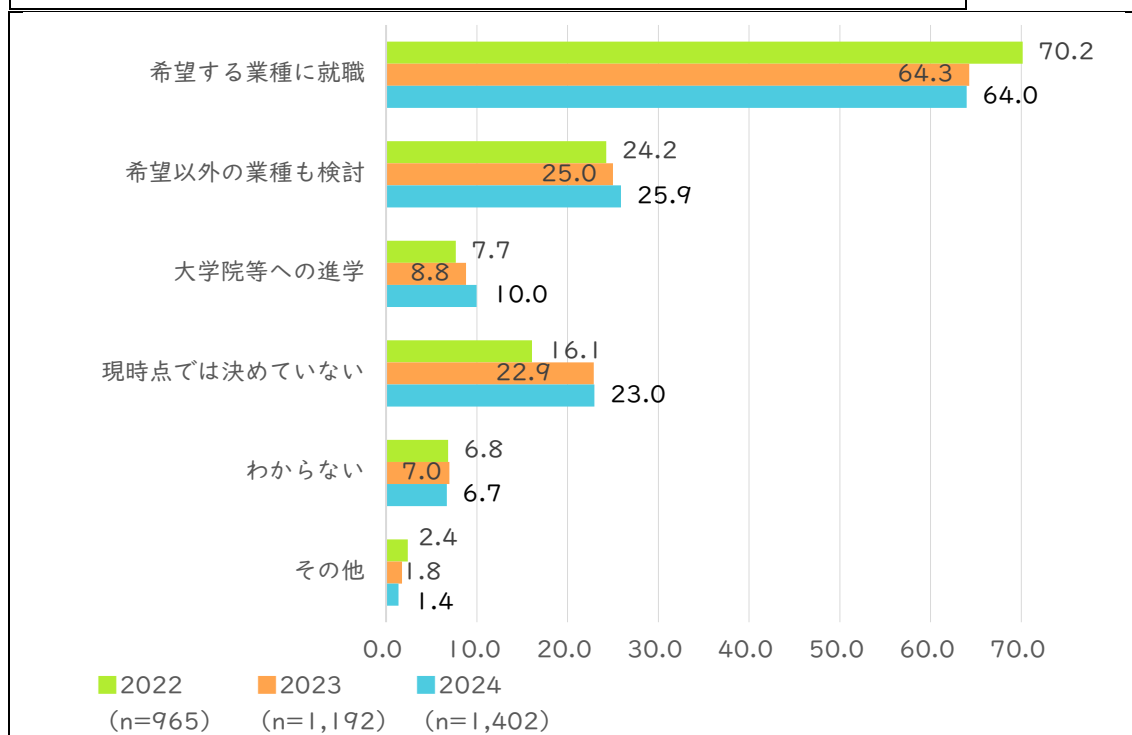


図 28 卒業後、希望する進路（複数回答可）（％）

大学院等への進学を希望する学生が増加傾向にある

卒業後、希望する進路に関する調査では、「希望する職種に就職」と回答した学生は 64.0％と最も高いが過去 2 年間の調査結果からは減少傾向にある。また、「現時点では決めていない」、或いは「わからない」と回答した学生は 29.7％となっている。一方、「大学院等への進学」は 10.0％となっており、前回調査（2023 年度）から 1.2 ポイント増加し、過去 2 年間の調査結果からも増加傾向にある。

問 26 大学からの進路支援への満足度を教えてください。

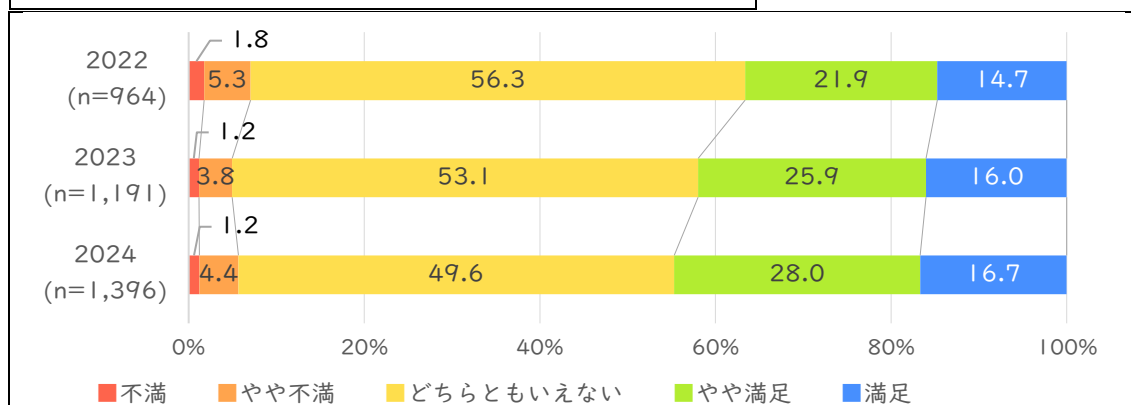


図 29 大学からの就職・進学等の進路支援についての満足度 (%)

進路支援への満足度についての肯定的な回答は過半数に足りない

大学からの就職・進学等の進路支援についての満足度に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生は 44.7% となっており、前回調査（2023 年度）から 2.8 ポイント増加、過去 2 年間の調査結果からも増加傾向にある。一方、「不満」、「やや不満」或いは「どちらともいえない」と回答した学生は 55.2% と前回調査（2023 年度）から 2.9 ポイント減少した。

V. 施設・大学生活について

問 27 学修環境【教室・講義室】の満足度について教えてください。

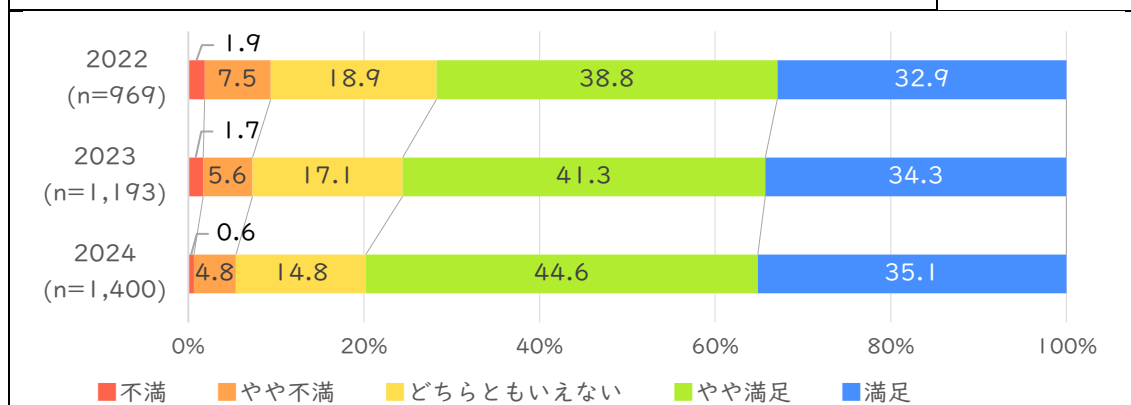


図 30 大学の学修環境の満足度【教室・講義室】 (%)

学生の約 8 割は教室・講義室の満足度に関し肯定的な意見を有している

大学の学修環境の満足度【教室・講義室】については、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生は 79.7% となっており前回調査（2023 年度）から 4.1 ポイント増加増加している。一方、「不満」或いは「やや不満」と回答した学生は 5.4% と前回調査（2023 年度）から 1.9 ポイント減少した。

問 27 学修環境【図書館】の満足度について教えてください。

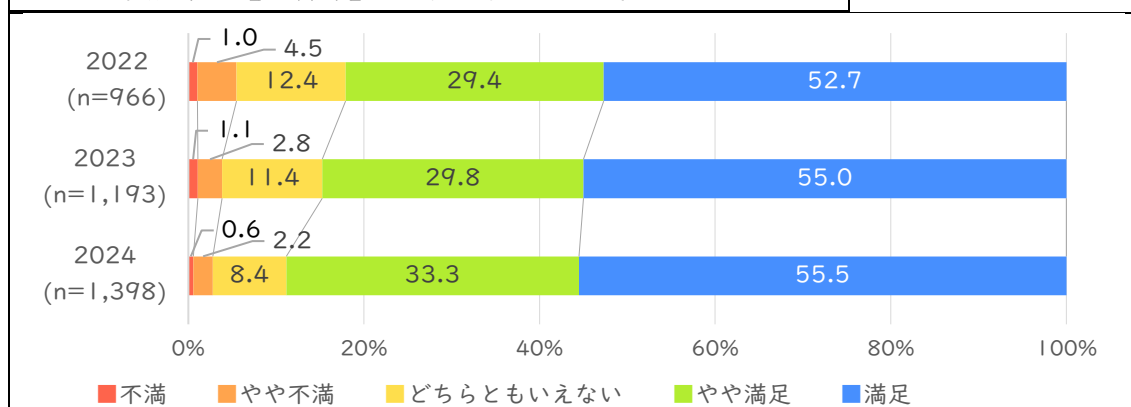


図 31 大学の学修環境の満足度【図書館】 (%)

学生の約 9 割は図書館の満足度に関し肯定的な意見を持っている

大学の学修環境の満足度【図書館】に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 88.8% と高い割合であり、過去 2 年間の調査結果から増加傾向にある。

問 27 学修環境【学生会館】の満足度について教えてください。

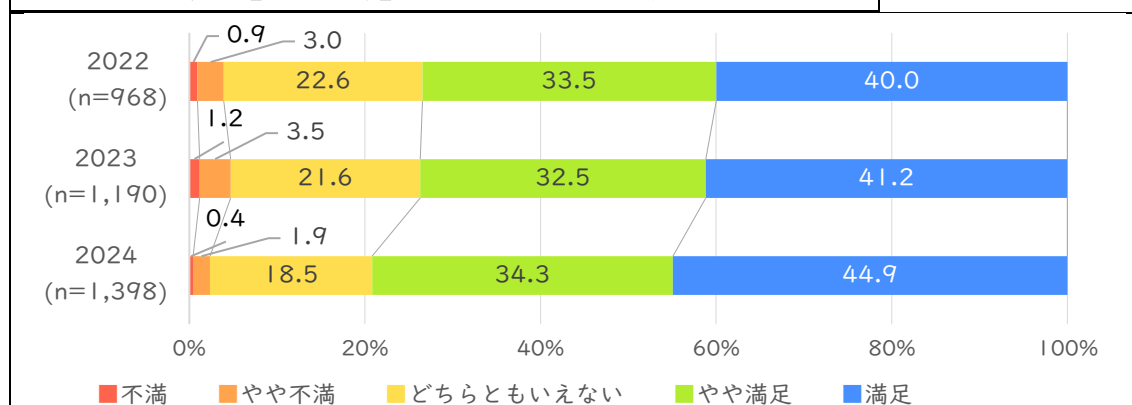


図 32 大学の学修環境の満足度【学生会館】 (%)

学生の約 8 割は学生会館の満足度に関し肯定的な意見を有している

大学の学修環境の満足度【学生会館】に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 79.2%と、前回調査（2023 年度）と比較すると 5.5 ポイント増加した。

問 27 学修環境【ICT 環境】の満足度について教えてください。

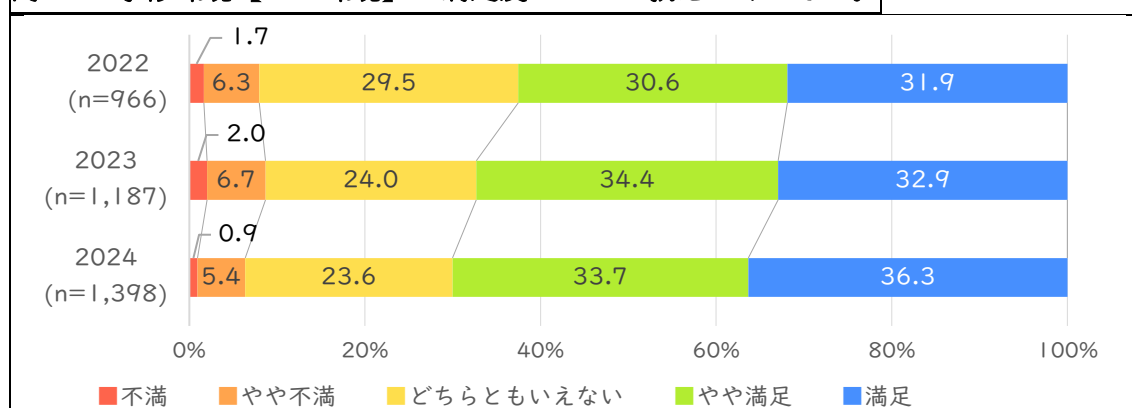


図 33 大学の学修環境の満足度【ICT 環境】 (%)

学生の 7 割は ICT 環境の満足度に関し肯定的な意見を有している

大学の学修環境の満足度【ICT 環境】に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 70.0%となり、過去 2 年間の調査結果から増加傾向にある。

問 27 学修環境【運動施設】の満足度について教えてください。

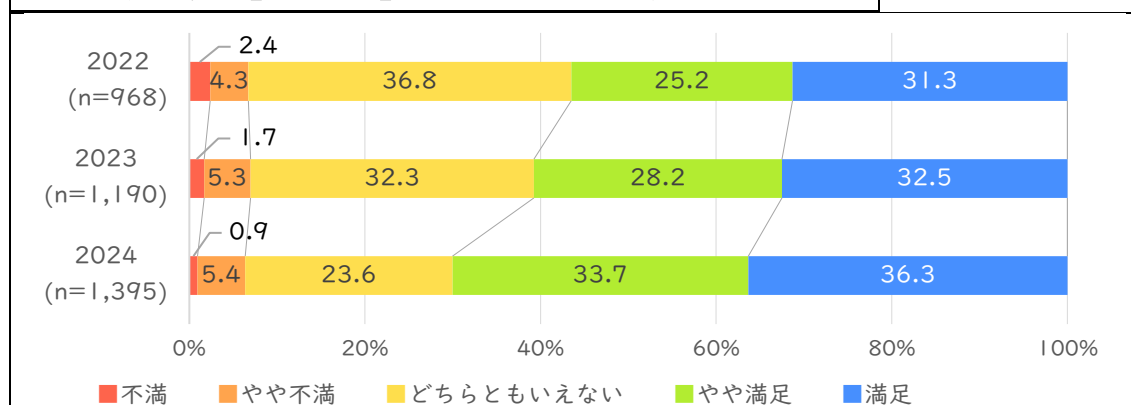


図 34 大学の学修環境の満足度【運動施設】 (%)

学生の 7 割は運動施設の満足度に関し肯定的な意見を有している

大学の学修環境の満足度【運動施設】に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 70.0% となり、過去 2 年間の調査結果から増加傾向にある。

問 28 学修環境【福利厚生施設（売店）】の満足度について教えてください。

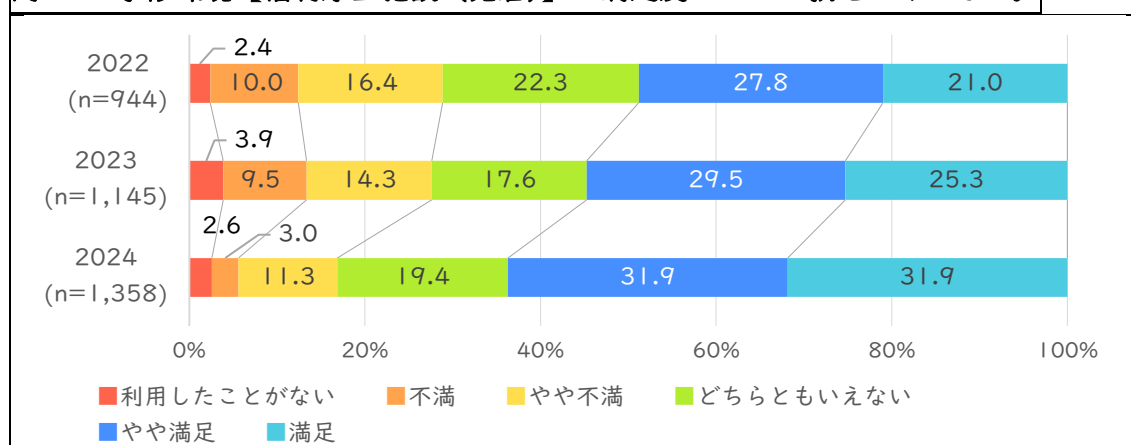


図 35 大学の福利厚生施設の満足度 【売店（学生会館 1F）】 (%)

学生の 6 割超は売店の満足度に関し肯定的な意見を有している

大学の福利厚生施設の満足度【売店（学生会館 1F）】に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 63.8% となり、過去 2 年間の調査結果から増加傾向にある。一方、「不満」と回答した学生は 3.0% となり、前回調査（2023 年度）と比較すると 6.5 ポイント減少した。

問 28 学修環境【福利厚生施設（カフェ）】の満足度について教えてください。

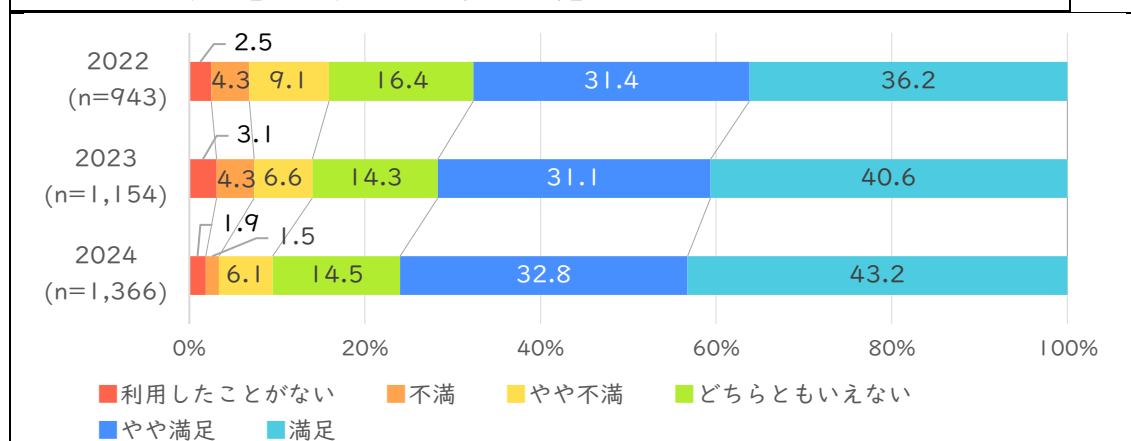


図 36 大学の福利厚生施設の満足度【カフェ（学生会館 2F）】（％）

学生の7割超はカフェの満足度に関し肯定的な意見を有している

大学の福利厚生施設の満足度【カフェ（学生会館 2F）】に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 76.0% となり、過去 2 年間の調査結果から増加傾向にある。一方、「不満」と回答した学生は 1.5% となり前回調査（2023 年度）と比較すると 2.8 ポイント減少した。

問 28 学修環境【福利厚生施設（サークル棟）】の満足度について教えてください。

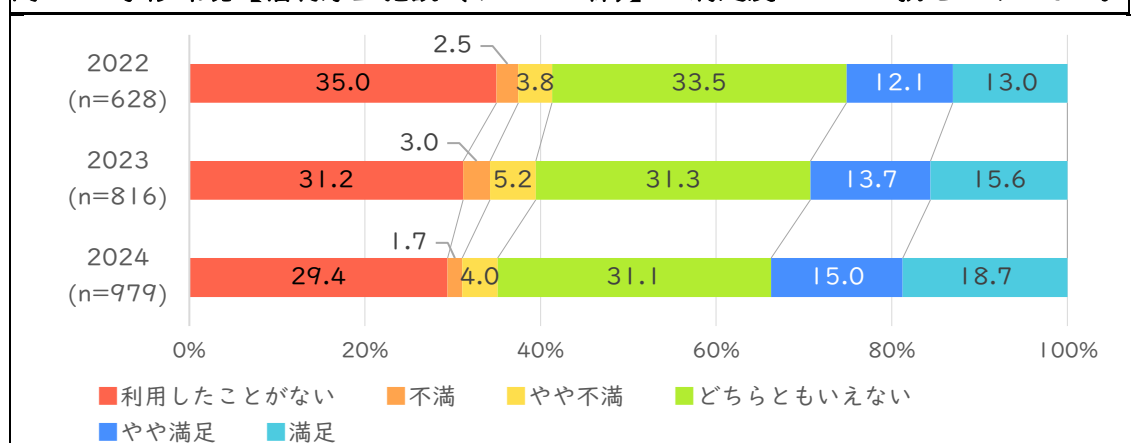


図 37 大学の福利厚生施設の満足度【サークル棟】（％）

学生のサークル棟に対する満足度は肯定的な意見が増加している

大学の福利厚生施設の満足度【サークル棟】に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 33.7% となり、過去 2 年間の調査結果から増加傾向にある。

問 29 学生生活の満足度について教えてください。

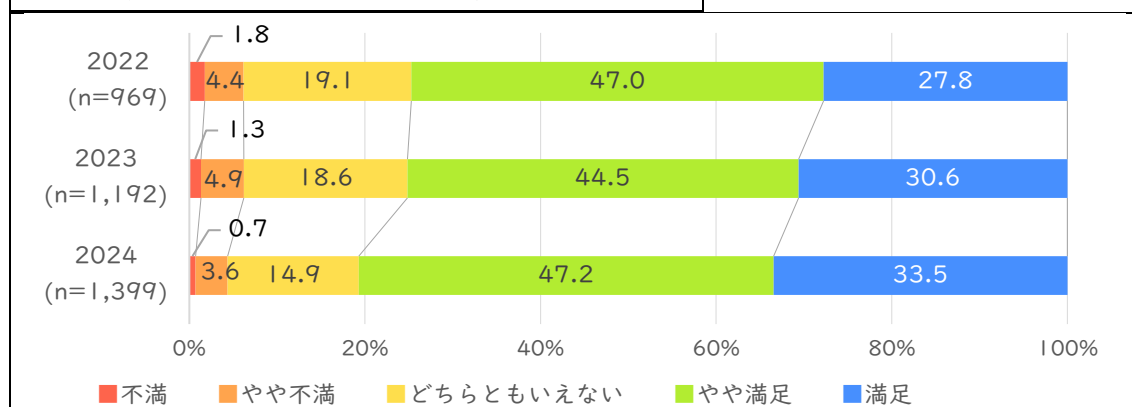


図 38 学生生活に関する満足度 (%)

学生の約 8 割は学生生活の満足度に関し肯定的な意見を有している

学生生活に関する満足度に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 80.7% となり、過去 2 年間の調査結果から増加傾向にある。

表 施設に関する自由記述回答内訳(139 件数)

売店・学食・カフェ	駐車場	バス関連	課外活動施設	施設全般
10 件	73 件	2 件	11 件	43 件

2 ハラスメント・犯罪・薬物被害等に関する調査

I. ハラスメントについて

1. 結果分析

回答者

性別

項目	2024 年度 (n=1,343)	2023 年度 (n=1,154)	2022 年度 (n=907)
男性	483 (36.0)	426 (36.9)	299 (33.0)
女性	841 (62.6)	719 (62.3)	599 (66.0)
その他	8 (0.6)	1 (0.1)	4 (0.4)
答えたくない	11 (0.8)	8 (0.7)	5 (0.6)

所属

項目	2024 年度 (n=1,343)	2023 年度 (n=1,154)	2022 年度 (n=907)
国際学群	193 (14.4)	223 (19.3)	365 (40.2)
国際文化学科	297 (22.1)	159 (13.8)	
国際観光産業学科	250 (18.6)	156 (13.5)	
スポーツ健康学科	194 (14.4)	332 (28.8)	295 (32.5)
看護学科	309 (23.0)	250 (21.7)	247 (27.2)
健康情報学科	100 (7.4)	34 (2.9)	

学年

項目	2024 年度 (n=1,343)	2023 年度 (n=1,154)	2022 年度 (n=907)
1 年	514 (38.3)	460 (39.9)	197 (21.7)
2 年	437 (32.5)	270 (23.4)	212 (23.4)
3 年	208 (15.5)	262 (22.7)	262 (28.9)
4 年	184 (13.7)	162 (14.0)	236 (26.0)

問 ハラスメント防止の啓発に関するポスター等を見たことがありますか。

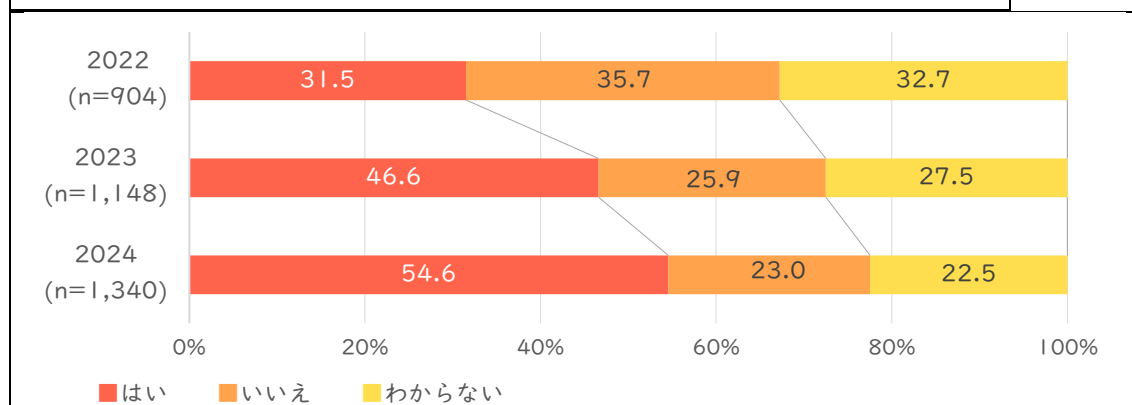


図 「ハラスメント防止」を啓発するポスター等を見た (%)

ハラスメント防止啓発に係る認知度は改善傾向にある

ハラスメント防止の啓発に関する認知度について、「啓発ポスター等を見た」と回答した学生の割合は、54.6%（前年度 46.6%）と半数以上となっている。一方で、「見たことがない」或いは「わからない」と回答した学生の割合は 45.5%（前年度 53.4%）となっている。

問 学内にハラスメント防止に係る相談窓口があることを知っていますか。

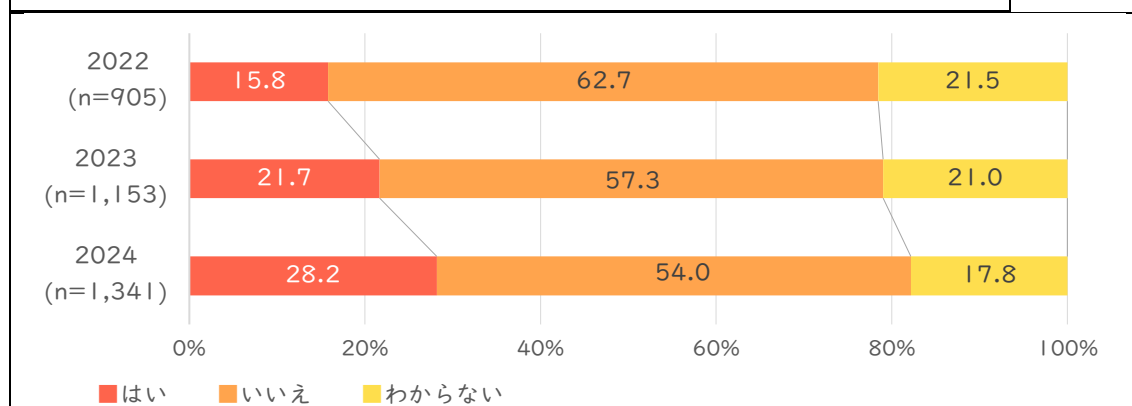


図 学内にハラスメントに係る相談窓口があることを知っている (%)

過半数の学生はハラスメントに係る相談窓口があることを知らない

ハラスメントに係る相談窓口の認知度について、「知っている」と回答した学生の割合は、28.2%（前年度 21.7%）と対前年度比 6.5 ポイント上昇し改善が見られる。一方で、「知らない」或いは「わからない」と回答した学生は、71.8%（前年度 78.3%）と依然として高い割合を示している。

問 本学関係者からハラスメントを受けたことがありますか。

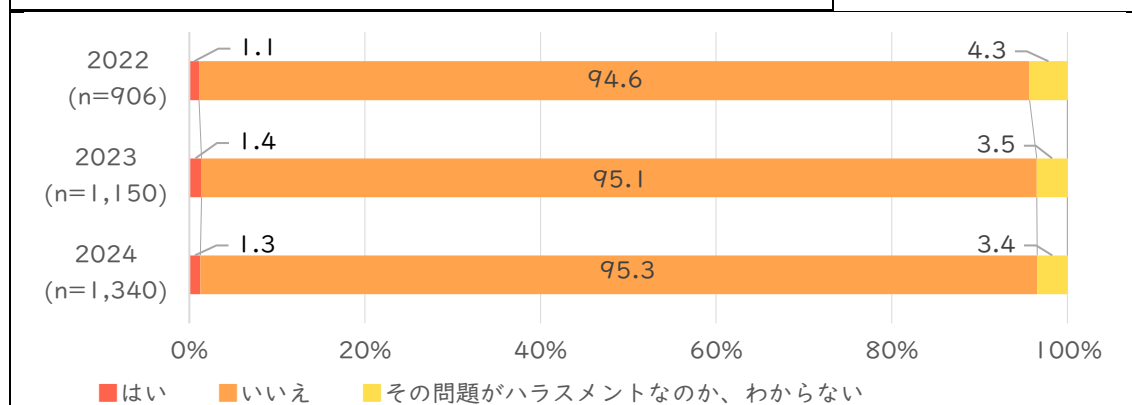


図 本学の関係者からハラスメントを受けたことがある (%)

前回調査から16～17人の学生がハラスメントを受けたと回答

本学の関係者からハラスメントを受けたことがあるかについては、「はい」と回答した学生の割合は、1.3%（前年度 1.4%）と低い割合ではあるが、過去 2 年間の状況から、僅かながら一定数の学生が何らかのハラスメントを受けていると回答している。また、「その問題がハラスメントなのか、分からない」と回答した学生の割合は、3.4%（前前年度 4.3%）となっており微減している。

問 あなたが受けたハラスメントの種別はどれに該当しますか（複数回答可）。

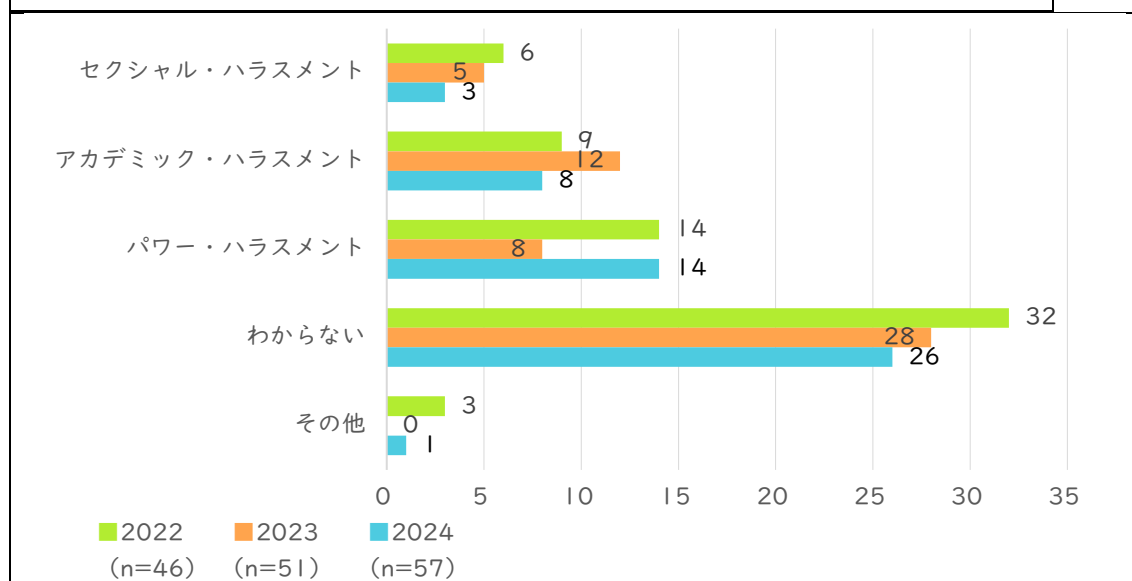


図 名桜大学生が受けたハラスメントの類別件数（複数回答可） (人)

受けたハラスメント種別が分からない学生は減少傾向にある

学生が受けたハラスメントの種別件数については、「わからない」と回答した学生が 26 人（前年度 28 人）と最も多く、過去 3 年度の調査状況から見ると減少傾向にある。次に多い回答は「パワー・ハラスメント」14 人（前年度 8 人）であり、次いで「アカデミック・ハラスメント」8 人（前年度 12 人）となっている。

問 ハラスメントを受けた際の相談相手は誰ですか（複数回答可）。

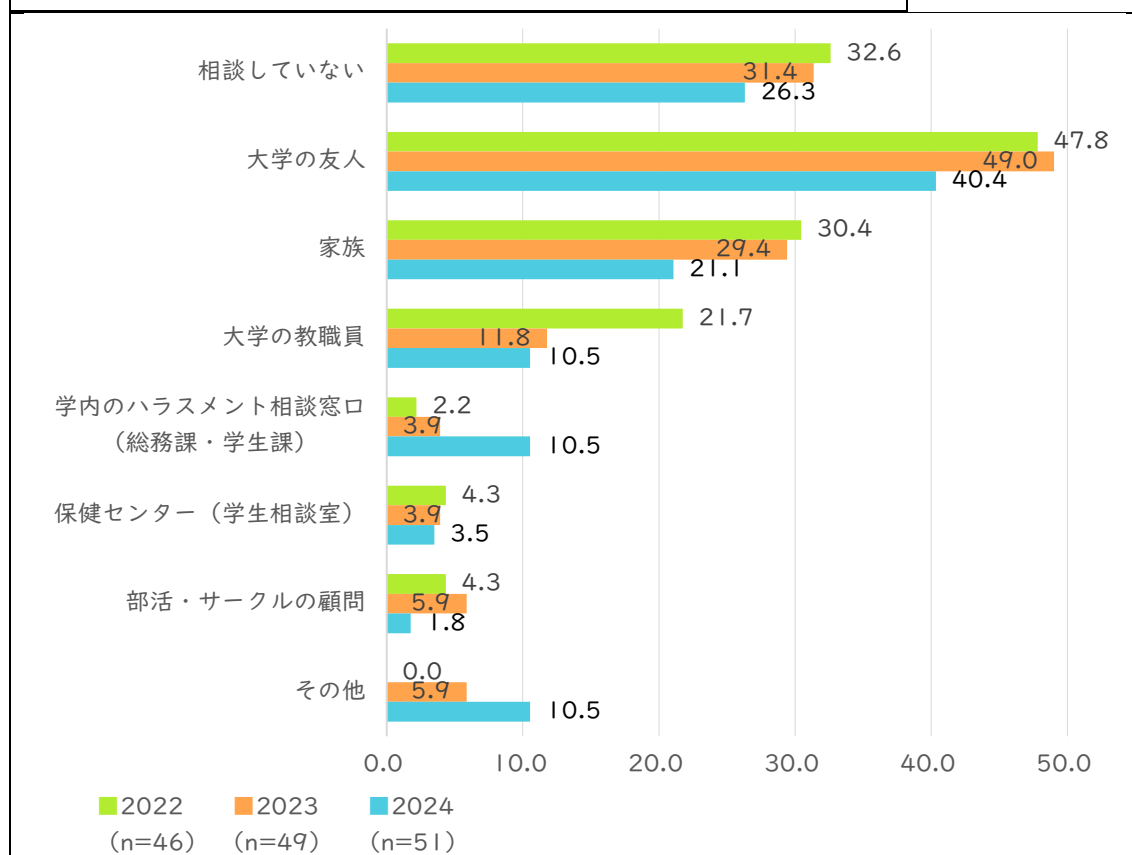


図 ハラスメントの相談相手（複数回答可） (%)

ハラスメントを受けた際に相談していない学生の割合は減少傾向にある

ハラスメントを受けた際の相談相手については、「大学の友人」と回答した学生の割合は、40.4%（前年度 49.0%）と最も高く、次に「家族」21.1%（前年度 29.4%）が続いている。一方で、「相談していない」と回答した学生の割合は 26.3%（前年度 31.4%）となっている。

また、「学内のハラスメント相談窓口」と回答した学生の割合は 10.5%（前年度 3.9%）と前年度と比較すると大幅に増加している。

Ⅱ. 犯罪・薬物被害について

問 犯罪・薬物被害の啓発に関するポスター等を見たことがありますか。

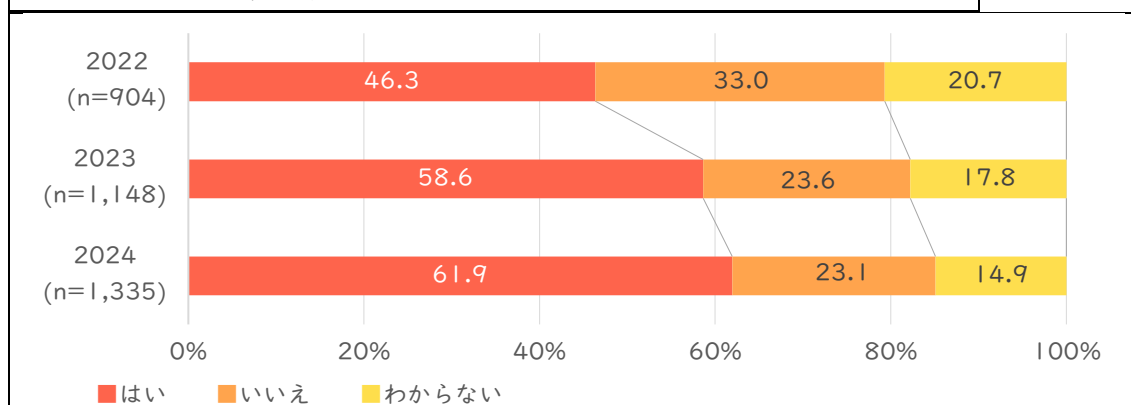


図 犯罪・薬物被害の啓発ポスター等を見た (%)

犯罪・薬物被害の啓発に係る認知度は改善傾向にある

犯罪・薬物被害の啓発に関する認知度について、「啓発ポスター等を見た」と回答した学生の割合は、61.9%（前年度 58.6%）と半数以上となっている。一方で、「見たことがない」、「わからない」と回答した学生の割合は 38.0%（前年度 41.4%）となっている。

問 学内に犯罪・薬物被害に係る相談窓口があることを知っていますか。

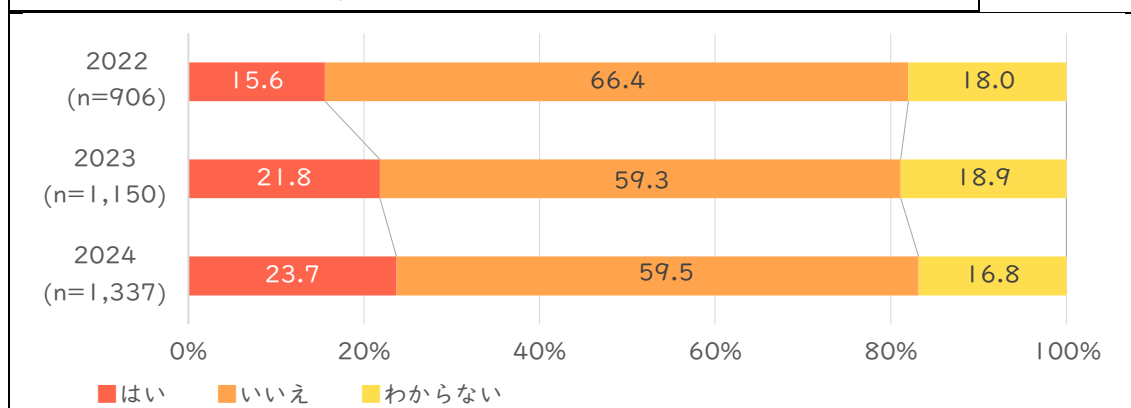


図 犯罪・薬物被害の相談窓口を知っている (%)

約 6 割の学生は犯罪・薬物被害に係る相談窓口があることを知らない

犯罪・薬物被害の相談窓口の認知度について、「知っている」と回答した学生の割合は、23.7%（前年度 21.8%）となっている。一方で、「知らない」、「わからない」と回答した学生は、76.3%（前年度 78.2%）と依然として高い割合を示している。

問 入学後に甘い儲け話に誘われたことはありますか。

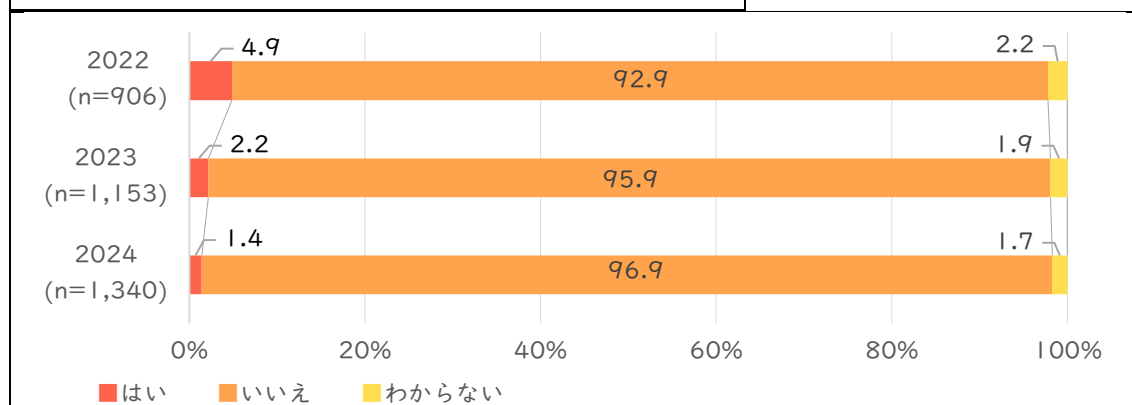


図 入学後、甘い儲け話に誘われたことがある (%)

入学後に甘い儲け話に誘われた学生の割合は減少傾向にある

入学後、甘い儲け話に誘われたことがあるかについて、「はい」と回答した学生の割合は、1.4%（前年度 2.2%）となっており、過去 3 年間毎年度減少している。一方で、「いいえ」、「わからない」と回答した学生は、98.6%（前年度 97.8%）と依然として高い割合を示している。

問 入学後に甘い儲け話に誰から誘われましたか（複数回答可）。

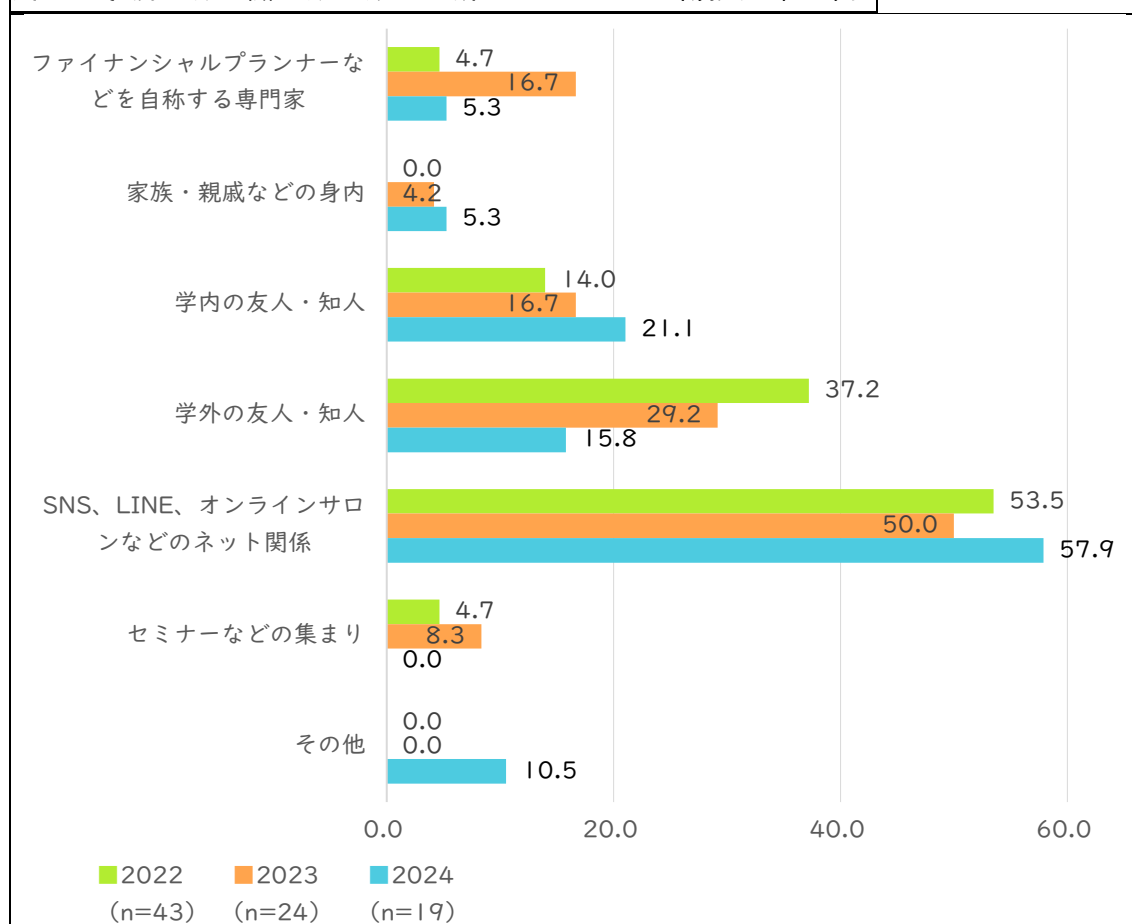


図 甘い儲け話に、誰から誘われたか（複数回答可） (%)

甘い儲け話の誘いは SNS や LINE 等のネット関係が最も多い

甘い儲け話に、誰から誘われたかについては、「SNS、LINE、オンラインサロンなどもネット関係」と回答した学生の割合は、57.9%（前年度 50.0%）と最も高く、次に「学内の友人・知人」21.1%（前年度 16.7%）、「学外の知人・友人」15.8%（前年度 29.2%）が続いている。一方で、「その他」と回答した学生の割合は 10.5%（前年度 0%）となっており、調査開始以降初めて回答者を確認した。

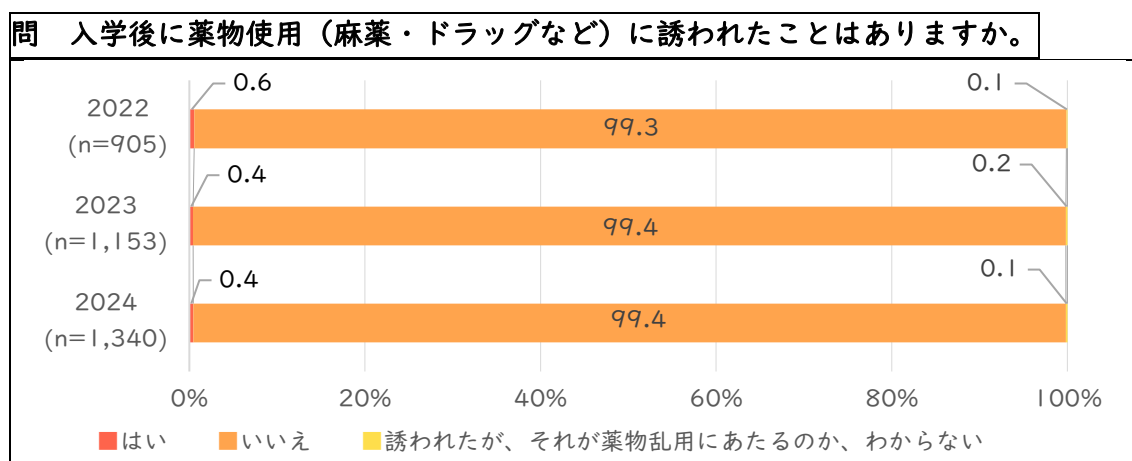


図 入学後、薬物使用（麻薬・ドラッグなど）に誘われたことがある（%）

毎調査年度 6～7 人の学生が薬物使用に誘われたことがあると回答

入学後、薬物使用（麻薬・ドラッグなど）に誘われたことがあるかについて、「はい」、「誘われたが、それが薬物乱用にあたるのか、わからない」と回答した学生の割合は、0.5%（前年度 0.6%）となっており、過去 3 年間毎年度微減ではあるが減少している。一方で、「いいえ」と回答した学生は、99.4%（前年度 99.4%）となっている。

問 薬物使用（麻薬・ドラッグなど）に誰から誘われましたか（複数回答可）。

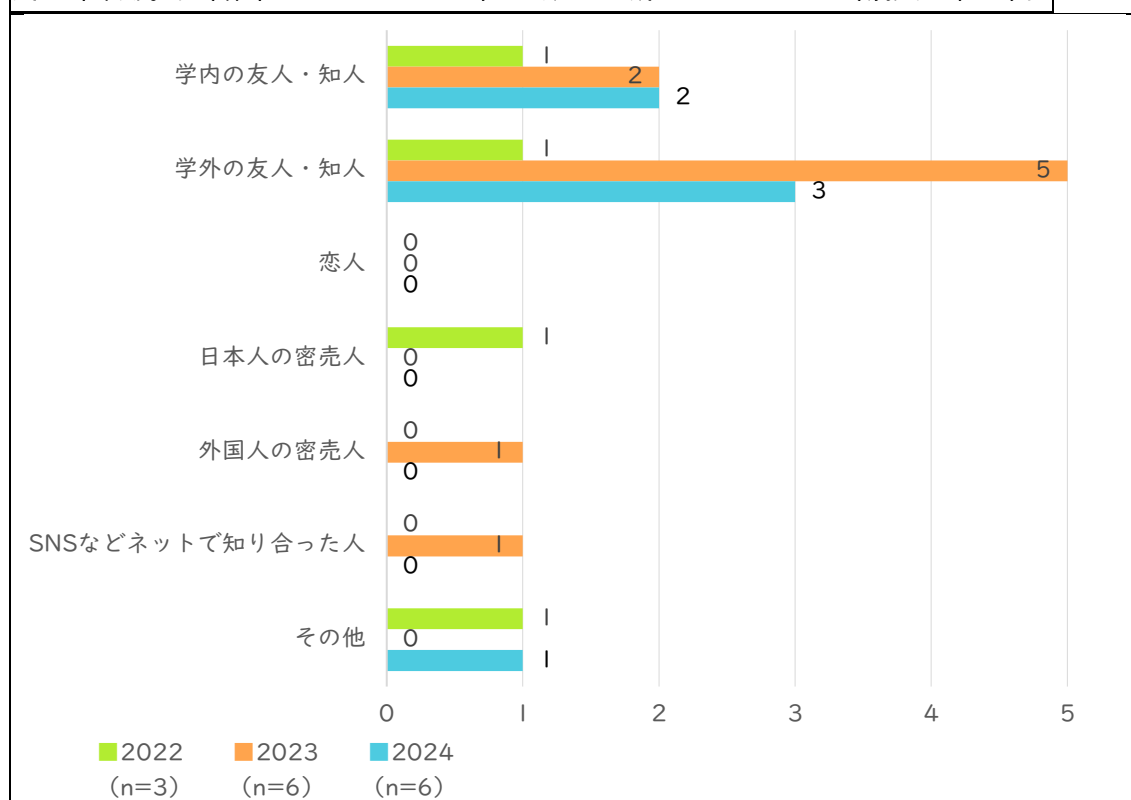


図 薬物使用（麻薬・ドラッグなど）に、誰から誘われたか（複数回答可）（人）

学内外に関わらず友人・知人から誘われる傾向にある

薬物使用（麻薬・ドラッグなど）に、誰から誘われたかについては、「学外の友人・知人」と回答した学生数は、3人（前年度5人）と最も高く、次に「学内の友人・知人」2人（前年度2人）となっている。「恋人」、「日本人の密売人」、「外国人の密売人」と回答した学生は0人であったが、一方で、「その他」と回答した学生が1人となった。

問 あなたが希望する学生生活に必要なと感じる講習会はどれですか（複数回答可）。

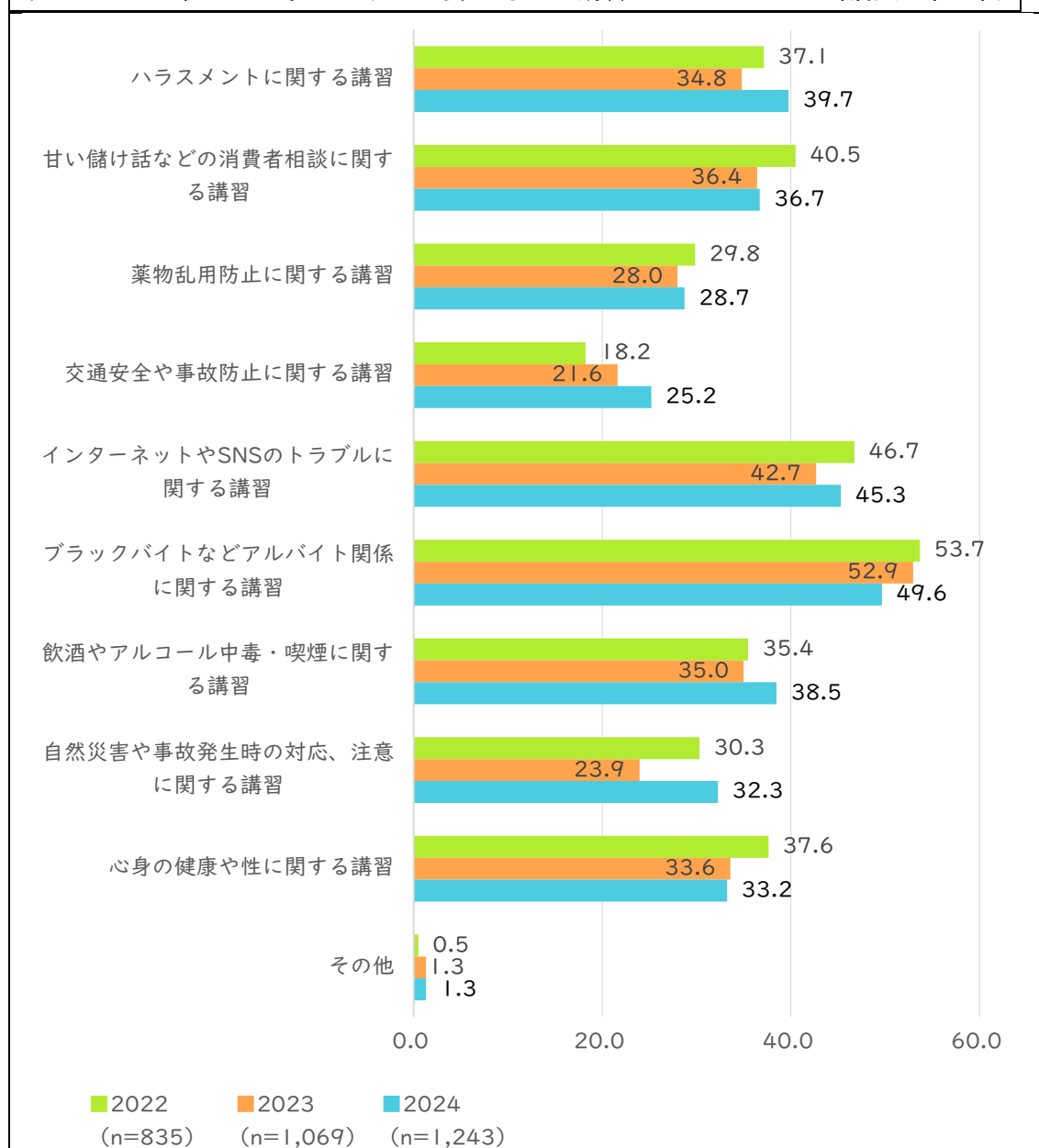


図 希望する学生生活のための講習会（複数回答可）（％）

学生が学生生活に必要なと感じる講習会の回答は多岐にわたる

希望する学生生活のための講習会については、「ブラックバイトなどアルバイト関係に関する講習」と回答した学生の割合は、49.9％（前年度 52.9％）と最も高く、次に「インターネットやSNSのトラブルに関する講習」45.3％（前年度 42.7％）、「ハラスメントに関する講習」39.7％（前年度 34.8％）が続いている。

総 括

学生生活実態調査

I 住まい及び経済状況について

住まい及び経済状況においては、駐車場・駐輪場、大学送迎バスへの満足度が例年低い状況にあるものの、駐車場・駐輪場に関しては、前回調査（2023 年度）と比較すると 15.5 ポイントと大幅に減少した。これは、構内増築工事に伴う学生駐車場縮小が改善されたことが要因だと考えられる。しかし、令和 8 年度（2026 年度）までは学生数が増加することから、学生の通学環境においては例年満足度が低いことを鑑み早急な対応策が必要であると考ええる。

居住形態に関する調査では、「一人暮らし」と回答した学生は 75.6%と最も高く、過去 2 か年の調査結果から大きな変化は見られない。アルバイトの目的に関する調査では、過去 2 か年の調査結果から、「生活費」の回答が前々回調査（2022 年度）から 5.1 ポイント減少した。逆に「旅行、レジャー」は 8.8 ポイントと増加傾向にあり、コロナ禍が落ち着き学生の生活環境の変化が見られる。

II 学生生活について

クラブ・サークル活動への参加頻度に関する調査では、「所属していない」学生が前々回調査（2022 年度）と比較すると 1.1 ポイント増加しており、大学内での活動減少がうかがえる。授業のない日や休日の過ごし方に関する調査では、「寝る」または、「アルバイト」をして過ごす学生が多い。また、学内外でのサークル等活動も減少傾向にあり、クラブ・サークル活動への参加頻度に関する調査結果とリンクしているのが分かる。

現在の悩みに関する調査では、「就職・進学等将来のこと」と回答した学生は、43.8%と最も多いが、前々回調査(2022 年度)と比較すると 8.0 ポイント減少している。「勉学の悩み」が前年度より 1.0 ポイント増加、「自分の性格や生き方」が 2.1 ポイント増加している。今後も大学内の学修支援・相談室窓口の周知徹底が重要である。

III 履修・学修について

学習支援センターを活用学生の満足度は高い。各学期オリエンテーションで、各学習支援センターの周知徹底が重要であり、教職員協働で実施することも重要であると考ええる。また、指導教員の認知度は前年度より、高くなっているが、指導教員から履修指導を受ける機会の有無に関する調査では、「いいえ」と回答した学生が 58.4%と最も多く、過去 2 か年の調査結果から増加傾向にある。しかし、問 15 の「約 6 割の学生は履修支援に肯定的な意見を持っている」結果を踏まえると、指導教員以外の学科教員から指導を受けていることも推察される。

Ⅳ 進路（キャリア形成）について

就職・進学等の進路についての相談相手に関する調査では、「親、きょうだい」と回答した学生が72.4%と最も高く、過去2年間の調査結果から、将来の進路相談に関する相談先となっていることが分かる。卒業後、希望する進路に関する調査では、「現時点では決めていない」、或いは「わからない」と回答した学生は29.7%となっているが、これは3～4年次学生の回答率が低いことが影響していると推測される。また、学生からの就職・進学等の進路支援についての満足度に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生は前回調査（2023年度）から2.8ポイント増加、過去2か年の調査結果からも増加傾向にある。一方、「不満」、「やや不満」或いは「どちらともいえない」と回答した学生は前回調査（2023年度）から2.9ポイント減少したものの、過去2か年の調査結果から全体の半数以上の学生は本学が提供する進路支援に対し肯定的な印象持っていないことがうかがえる。キャリア開発委員会を中心に、進路支援に関する満足度を高める検討が必要であろう。

Ⅴ 施設・大学生活について

2022年度・2023年度に比較して、学内の施設や学生生活において学生の満足度は高くなっている。これらは学生のニーズに合わせた学内環境の改善にあると考える。一方、サークル棟における満足度は肯定的な意見が増加傾向にはあるものの、他の施設と比較すると高くない。今回の実態調査で、クラブ・サークル活動への参加学生が減少傾向の結果を踏まえて、サークル棟の環境整備等の検討も必要であると考ええる。

ハラスメント・犯罪・薬物被害等に関する調査

Ⅰ ハラスメントについて

ハラスメント防止の啓発に関する認知度について、認知している学生の割合は、54.6%（前年度46.6%）と半数以上であったが、残りの約4割の学生に対する周知方法は十分でないことが明らかとなった。今年度は、学内トイレにポスター掲示等を実施したが、学生のハラスメントに関する関心度は低い傾向にある。これらのことが、ハラスメントに係る相談窓口の認知度の「知らない」、「わからない」71.8%（前年度78.3%）や学生が受けたハラスメントの種別件数で、「わからない」と回答した学生が最も多い結果に繋がっていると推察される。

また、本学の関係者からハラスメントを受けたことがあるかについては、低い割合ではあるが、過去3年度の状況から、僅かながら学生が何らかのハラスメントを受けていると推察される。学外の専門機関等との連携を含め、定期的に教職員や学生へのハラスメント啓発の講習会を実施し予防につなげる取り組みを継続することが重要であり、学生課においては、学生が主体となって啓発活動が出来る体制づくりを支援することが重要であると考ええる。

Ⅱ 犯罪・薬物被害について

犯罪・薬物被害の啓発に関する認知度については、認知している学生の割合は、前年度調査から過半数以上の肯定的回答があり改善傾向にあるが、その相談窓口の認知度については、「知らない」、「わからない」と回答した学生が、76.3%（前年度 78.2%）と依然として高い割合を示しており、周知活動不足、或いは学生の関心が低いことがうかがえる。入学後に薬物使用（麻薬・ドラッグなど）に誘われたことがあるかについては、毎調査年度において6～7人が「ある」と回答しており、その勧誘者については、学内外に関わらず友人・知人から誘われる傾向にある。

今後の周知活動においては、従来の学期ごとのオリエンテーションに加え、沖縄県で実施している「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動」月間と連動した周知活動も取り入れ、学内での周知強化を推進したい。

また、入学後、甘い儲け話に誘われたことがあるかについては、過去3年間毎年度減少しているが、「いいえ」、「わからない」が、98.6%（前年度 97.8%）と依然として高い割合を示している。勧誘媒体は、「SNS、LINE、オンラインサロンなどもネット関係」が最も高く57.9%（前年度 50.0%）であることや友人を含む身近なものからの勧誘であることを踏まえ、「だれもが被害者・加害者」にならないためにも、講演会やコンテンツを活用した注意喚起を徹底することが重要である。

希望する学生生活のための講習会については、「ブラックバイトなどアルバイト関係に関する講習」と回答した学生の割合は、49.9%（前年度 52.9%）と最も高く、次に「インターネットやSNSのトラブルに関する講習」45.3%（前年度 42.7%）、「ハラスメントに関する講習」39.7%（前年度 34.8%）が続いている。学生が学生生活に必要と感じる講習会の回答は多岐に渡っており、普段の生活の中で様々な問題やトラブルに遭遇し、課題として認識していると考ええる。

講習会実施においては、学生が主体となって啓発活動を行うことでより身近な事象として関心が持てると考える。学生課としては、その活動を支援したい。

最後に、本調査にご協力いただきました学生並びに教職員の皆様に心より感謝申し上げます。

学生サポート委員会